財団法人 日本ハンドボール協会編　平成23年 10月1日発行(毎月1回1日発行)　通巻522号　昭和40年6月7日第3種郵便物認可

ハンドボール

特集
第62回全日本高校選手権大会
第24回全国小学生大会
第16回ジャパンオープントーナメント

10
OCT.2011・No.522

[表紙写真：ロンドンオリンピックを目指す女子ナショナルチーム]

財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.jp/

molten
ACENTEC™
Accuracy Enhancing Technology
NUEVA

日本のハンドボールをロンドンに

(財) 日本ハンドボール協会 強化本部長　**西窪 勝広**

3月11日の東日本大震災から半年が過ぎ、被災された方々の復興に向けた懸命な姿にロンドン予選を控えた日本代表男女メンバーも勇気を貰い、一日も早い復興をお祈りいたしております。

「アジアNo.1に返り咲く」を強化重点項目として取り組んできました。

代表スタッフ、選手達のこれまでの努力、そして愛好者の皆様全ての「オリンピックへ」の思いの真価を問われる大一番が目前に迫ってきました。

日本代表だけで「アジアNo.1」になることは不可能に近い。日本代表に繋がる底辺強化の課題として各カテゴリーも日の丸をつけ闘う以上は勝ちに拘り、常にアジアの中で優位な立場で闘える強化が「アジアNo.1」に繋がり、継続したオリンピック出場になると、各カテゴリーの共有課題として実践してまいりました。

また、「アジアNo.1」になるために情報戦略スタッフが対戦国の情報収集に努め、医科学と密な連携をとりながら代表チームの大会参加、遠征にもドクター、トレーナーを同行させ選手個々の外傷、障害カルテを作成し所属チームとも連携を図り、栄養面に関してもJISS栄養士による栄養指導を行い、正しい食生活の習慣化や栄養に対する知識教育も実施し、全てをロンドン予選にむけてきました。

特に強化拠点として味の素トレーニングセンターで心置きなく練習できる環境が、選手のモチベーションを高めている事も間違いありません。

文部科学省が設定したスポーツ振興基本計画の中にあります「一貫指導システムの構築」「競技者育成プログラム」に従い、若手選手層からタレントを発掘し将来世界で活躍できる選手育成、統一した指導方法とレベル向上に他の競技団体よりいち早く取り組んできた項目の一つが“NTS”であり、10年の歳月が過ぎました。

この10年間、全国のハンドボール関係者のご努力で“NTS”各ブロックで発掘された選手が社会人チーム、大学で中心選手として活躍しており、ロンドン予選を闘う男女日本代表選手も全て“NTS”で発掘された選手達です。

其の選手達がロンドンアジア予選で最善を尽くす事は言うまでもありませんが、ここまで数多くの方々がオリンピック出場を目標にご努力された英知と、「アジアのNo.1」に成る為に多方面からサポート頂いた内容を集約し闘ってまいります。

愛好者の皆様も、1983年ロサンゼルスオリンピック予選で男子日本代表が代表権を勝ち取ったときのように一丸ムードを醸し出してスタッフ、選手達を後押ししていただきお力を頂けるようにお願いいたす次第です。

男子は韓国、女子は中国といずれもアウェイの厳しい闘いとなりますが、皆様の心意気と共にアジアのライバル達に立ち向かって、なんとしてでも悲願のオリンピック出場権を男女勝ち取り、皆様と喜びと感動を分かち合えるように、私も残された時間に最善を尽くしてまいる覚悟です。どうか、皆様のお力を日本代表男女にお貸しください。

高松宮記念杯

第62回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

平成23年度全国高等学校総合体育大会

男子（県立小林秀峰高等学校）、女子（県立華陵高等学校）共に初優勝を飾る！

最終順位

［男子］
優勝：県立小林秀峰高等学校（宮崎県）
２位：藤代紫水高等学校（茨城県）
３位：県立下松工業高等学校（山口県）
　　　法政大学第二高等学校（神奈川県）

［女子］
優勝：県立華陵高等学校（山口県）
２位：高岡向陵高等学校（富山県）
３位：佼成学園女子高等学校（東京都）
　　　四天王寺高等学校（大阪府）

総　評

岩手県高体連ハンドボール専門部委員長　**中島 昭博**

3.11 東日本大震災の影響で開催が危ぶまれました「2011熱戦再来　北東北総体」の開催は、全国高体連と北東北３県、及び、宮城県の関係者の迅速な対応と熱意により４月に正式決定し、ハンドボール競技は花巻市実行委員会をはじめ、地域の多くの方々の後押しを受けながら開催にこぎ着けることができました。

「北の空　君に無限の可能性」のスローガンのもと、７月28日花巻市総合体育館で開かれた開会式はチームが一堂に会して、花巻農業高校鹿（しし）部による歓迎の演舞の後、前年度優勝校の男子・福井県北陸高校、女子・京都府立洛北高校を先頭にチーム紹介と行進の後、（財）全国高体連ハンドボール専門部 船木委員長の開会宣言により開幕しました。そして、（財）全国高体連ハンドボール専門部越石部長と（財）日本ハンドボール協会川上副会長のご挨拶、並びに、大石花巻市長と花巻南高校生徒会執行部佐々木執行委員長からの歓迎のことばに続いて、地元岩手県代表・不来方高校男女主将が「震災後の苦労の日々、全国から寄せられた支援と励ましに感謝し、ハンドボールが出来る幸せを感じながら全力で試合に臨む」と力強く選手宣誓し、場内から大きな拍手が送られました。次に、沖縄県に対する先催県表彰が行われ、フィナーレには花巻南高校合唱隊の歓迎の歌声が披露され、全国の精鋭達による94試合の幕が切って落とされました。

７月29日、花巻市総合体育館２面、花巻市民体育館１面、富士大学スポーツセンター３面の３会場６コートで始まった競技は、直前の余震や電力制限による熱中症が心配されましたが、幸い大きな事故もなく終了することができ、安堵しております。激しいプレーで傷んだり、体調が心配される選手には、医師・看護士・トレーナーから処置を施し、サポートしていただきました。

今大会は、３月の選抜大会が中止となった影響により、前年度のインターハイ上位４校をシードとした組合せ抽選の結果、男女ともに序盤から強豪校同士の注目カードが多く、数々のドラマチックなシーンが展開されました。中には連日延長戦を勝ち上がった同士の対戦や、前半大量リードを許しながら大逆転したゲームなど、接戦が多く目が離せない好ゲームが数多くありました。チームの力量を引き出し、観衆にハンドボールの醍醐味を堪能していただくことができましたのは、チーム関係者の努力はもちろんですが、日頃から熱心に研鑽を積んでこられた審判員とマッチバイザーの皆様のお陰と感謝しております。

また、大会期間中は、スポーツイベント、日本テレビ「笑ってこらえて」の番組制作クルーほか、多数の報道関係者に取材していただき、有難いことでした。

本来であれば、３月の選抜大会にお見えになる予定でありました文部科学省スポーツ・青少年局の布村局長には、青森県で開催された総合開会式への出席後に、長登参事官、人見参事官補佐、朝倉事業係長と共に花巻市総合体育館を訪れていただき、試合を観戦していただきました。

メイン会場である花巻市総合体育館のロビーには、全国各地、ドイツから寄せられた被災地への数々の励ましとメッセージ、及び、オリンピック予選を控えて合宿中の日本代表チームへエールを届けようと日の丸への寄せ書きコーナーを設け、男子世界選手権大会での日本チームの試合写真を中心としたパネルを展示しました。また、各試合の記録掲示板の一

角に毎試合のピンナップ写真コーナーを設けて、写っている選手にプレゼントする企画は好評でした。

大会２日目、地元の期待を受けて、初の決勝進出を狙う岩手県代表・不来方高校と、前年度のリベンジに燃える沖縄県・興南高校の試合は、観客数が過去最高記録の3,000人を超え、駐車場に入りきらず長蛇の渋滞と雨天の中、駆けつけた大観衆の異様な興奮状態の熱気に包まれた中で行われました。不来方高校は主将千葉選手の活躍を中心に序盤３連取して好スタートを切り、前半17分で６点差にリードを広げながら、その後徐々に、興南が東江選手を軸に粘り強さを発揮して逆転勝利を収めました。ゲーム終了後は両チームの健闘に惜しみない拍手が送られました。

大会５日目、女子準決勝は、前回の選抜大会で決勝に勝ち進んだ山口県立華陵高校が東京都佼成学園女子高校を破り、花巻の地で再び決勝進出を果たしました。もう一つの準決勝は、富山県高岡向陵高校が大阪府四天王寺高校を下して決勝へと駒を進めました。一方、男子準決勝は、前年度優勝校の北陸高校を２回戦で破った宮崎県立小林秀峰高校が国体に向けて強化を図ってきた山口県立下松工業高校を退けて決勝進出。もう一つの準決勝は茨城県立藤代紫水高校が一時７点差まで開いたビハインドを覆して、神奈川県法政二高を破って決勝進出を決めました。男女４チームの第３位表彰式では、(財) 日本ハンドボール協会川上専務理事からご挨拶をいただきました。

最終日、女子決勝は、華陵高校と高岡向陵の対戦となりました。U-18に名を連ねるエース佐々木春乃選手の強打を中心に展開する高岡向陵に対し、スピードとポストプレーで得点を重ね、ゴールキーパー水落選手の活躍により点差を広げ、24対17でゲームセットとなり、華陵高校が花巻の地でついに決勝戦を制して歓喜の初優勝を果たしました。選手の喜び合う姿を誇らしげな表情で見守る吉兼監督の笑顔が印象的でした。

男子決勝は、小林秀峰高校と藤代紫水高校の顔合わせとなりました。スピードと軽快なステップからのカットインやミドルシュートで得点を重ねる小林秀峰に対し、力強いミドルシュートで対抗する藤代紫水。前半は小林秀峰ペースで進み、

前半17対７の10点リードで折り返します。前日の準決勝でも後半の猛烈な追い上げで勝ち上がってきた藤代紫水は、決勝でも後半にペースを上げてきますが、終盤まで足が止まらなかった小林秀峰がリードを守り抜いて、30対24でゲームセット。小林秀峰高校が初の栄冠に輝きました。試合終了の瞬間、満面の笑みの北林監督と抱き合って涙する荒木主将の姿が印象的でした。

男子決勝のハーフタイムには、被災した岩泉町から招待した二升石小学校と岩泉中学校の「3up-UC」一輪車チームの演技が披露され、会場内が華やかな雰囲気に包まれました。

閉会式では（財）日本ハンドボール協会渡邊会長、大石花巻市長、（財）全国高体連ハンドボール専門部越石部長からご挨拶をいただき、岩手県高体連ハンドボール専門部吉田部長の閉会宣言により７日間の熱戦の幕を閉じました。

大会を支える裏方として、大会記念コースターや巨大モザイク壁画の制作、花プランター設置など早期から取り組んで頂いた高校生活動や各々の業務を担当して頂いた役員・補助員の献身的な働きぶりには本当に頭の下がる思いでした。

何より、中止となった選抜大会の後、沢山の方々の有形無形のご支援や激励に背中を押され、行政、地域、球界が一体となって作り上げた大会を遂行させていただいたことに心から感謝を申し上げますとともに、(財)日本ハンドボール協会、(財)全国高体連ハンドボール専門部、東北ハンドボール協会、東北高体連ハンドボール専門部、岩手県並びに花巻市実行委員会、協賛各社団体、岩手県ハンドボール協会、岩手県高体連ハンドボール専門部、近隣高校一般教員及び補助員、演舞・合唱・演技で大会を盛り上げていただいた関係者各位、遠路はるばる応援に駆けつけて連日熱い声援を送っていただきました保護者とハンドボールファンの皆様方に深甚なる敬意と御礼を申し上げます。

結びに、今大会のために建築中でありました新体育館で開催されます来春３月の全国選抜大会で再び皆様にお目にかかれますことを楽しみにしております。そして、来夏、新潟県で開催されます北信越総体の成功を心よりご期待申し上げて、総評といたします。

平成23年度全国高等学校総合体育大会

高松宮記念杯　第62回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

男子の部

北陸高等学校（福　井）
県立松江工業高等学校（島　根）
県立小林秀峰高校（宮　崎）
学校法人石川高等学校（福　島）
駿台甲府高等学校（山　梨）
北海道札幌月寒高等学校（北海道）
県立盛岡第一高等学校（開催地）
県立法隆寺国際高等学校（奈　良）
県立伊予高等学校（愛　媛）
國學院大学栃木高等学校（栃　木）
県立清水東高等学校（静　岡）
県立鹿児島工業高等学校（鹿児島）
県立大分雄城台高等学校（大　分）
県立紀北農芸高等学校（和歌山）
県立仙台第一高等学校（宮　城）
県立長野南高等学校（長　野）
浦和学院高等学校（埼　玉）
星城高等学校（愛　知）
県立香川中央高等学校（香　川）
明星高等学校（東　京）
神戸国際大学附属高等学校（兵　庫）
西南学院高等学校（福　岡）
県立青森商業高等学校（青　森）
県立下松工業高等学校（山　口）

県立不来方高校（岩　手）
興南高等学校（沖　縄）
県立柏崎工業高等学校（新　潟）
高山西高等学校（岐　阜）
県立境高等学校（鳥　取）
県立富岡高等学校（群　馬）
県立祇園北高等学校（広　島）
土佐高等学校（高　知）
近江兄弟社高等学校（滋　賀）
佐賀清和高等学校（佐　賀）
県立東根工業高等学校（山　形）
県立藤代紫水高等学校（茨　城）
県立小松工業高等学校（石　川）
桃山学院高等学校（大　阪）
法政大学第二高等学校（神奈川）
市立千原台高等学校（熊　本）
徳島市立高等学校（徳　島）
県立四日市工業高等学校（三　重）
県立湯沢高等学校（秋　田）
県立総社高等学校（岡　山）
市川高等学校（千　葉）
府立北嵯峨高等学校（京　都）
県立氷見高等学校（富　山）
長崎日本大学高等学校（長　崎）

平成23年度全国高等学校総合体育大会

高松宮記念杯　第62回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

女子の部

府立洛北高等学校（京　都）
県立長野南高等学校（長　野）
県立華陵高等学校（山　口）
県立小林秀峰高等学校（宮　崎）
昭和学院高等学校（千　葉）
県立大曲農業高等学校（秋　田）
県立青森中央高等学校（青　森）
県立那覇西高等学校（沖　縄）
県立城北高等学校（徳　島）
県立静岡城北高等学校（静　岡）
県立賀茂高等学校（広　島）
県立水海道第二高等学校（茨　城）
埼玉栄高等学校（埼　玉）
盛岡白百合学園高等学校（開催地）
城北高等学校（熊　本）
県立生駒高等学校（奈　良）
星城高等学校（愛　知）
小松市立高等学校（石　川）
立命館守山高等学校（滋　賀）
県立佐世保商業高等学校（長　崎）
県立境高等学校（鳥　取）
県立今治東中等教育学校（愛　媛）
県立長岡大手高等学校（新　潟）
佼成学園女子高等学校（東　京）

高岡向陵高等学校（富　山）
聖和学園高等学校（宮　城）
県立岡山操山高等学校（岡　山）
県立鹿児島南高等学校（鹿児島）
県立高松商業高等学校（香　川）
県立栃木商業高等学校（栃　木）
県立和歌山商業高等学校（和歌山）
県立大分鶴崎高等学校（大　分）
北海道札幌南陵高等学校（北海道）
県立富岡東高等学校（群　馬）
県立長良高等学校（岐　阜）
県立橘高等学校（福　島）
県立不来方高等学校（岩　手）
県立四日市四郷高等学校（三　重）
県立神埼清明高等学校（佐　賀）
駿台甲府高等学校（山　梨）
県立明石高等学校（兵　庫）
県立福井商業高等学校（福　井）
町立福岡女子商業高等学校（福　岡）
県立岡豊高等学校（高　知）
県立松江南高等学校（島　根）
県立荏田高等学校（神奈川）
日本大学山形高等学校（山　形）
四天王寺高等学校（大　阪）

戦　評

【男子】

▼準決勝

小林秀峰（宮崎）　27（11-8, 16-13）21　下松工業（山口）

両者堅い守りが特徴のチーム。豊富な運動量のディフェンスと、下松工業は清水、小林秀峰は河野らゴールキーパーのファインプレーによって前半はなかなか得点が決まらない。

後半立ち上がり、3点ビハインドを早く追いつきたい下松工業だったが、小林秀峰の堅く厚い守りを前に攻め手がなくなる。小林秀峰はその隙に冨永、金丸のカットイン、津山のロングシュートなどで6点差まで広げる。下松工業も堀のロングシュート、佐竹のカットインなどで食らいつき、終盤互角の攻防を繰り広げるが、相手の足が止まった一瞬の隙を見逃さなかった小林秀峰が決勝に進出した。

藤代紫水（茨城）29（9-14, 20-12）26 法政大学第二（神奈川）

藤代紫水は法政第二の4-2ディフェンスに苦戦し、なかなか得点をあげられず、前半を5点のビハインドで折り返す。

後半、法政第二は最大7点差をつけたが、そこから藤代紫水はディフェンスを高めの5-1ディフェンスを仕掛け、法政第二の攻撃リズムを崩すことに成功する。藤代紫水は怒涛の7連取で同点に追いつくと、その後は一進一退となるが藤代紫水のゴールキーパー星が法政第二のシュートをことごとく弾き返し、小山内の速攻、ロングシュート等で3連取し、試合を決めた。

▼決勝

小林秀峰（宮崎）　30（17-7, 13-17）24　藤代紫水（茨城）

前半2対2の同点から、小林秀峰が5連続得点してペースをつかむ。藤代紫水もタイムアウトを取って立て直し、相澤のミドルシュートで反撃を開始するが、小林秀峰のディフェンスに苦労して15分すぎには7点差がつく。その後は小林秀峰が吉永のカットイン、荒木のポストシュート等で確実に加点し、10点差とする。

後半、藤代紫水は相手のバックプレーヤー2人にマンツーマンディフェンスを仕掛け、リズム良く得点を重ねて13分、小山内尚の速攻で5点差に追い上げる。しかし、小林秀峰は完成度の高いディフェンスからの速攻で加点し、藤代紫水の猛攻撃を凌ぎきり、インターハイ初の頂点に立った。

【女子】

▼準決勝

華陵（山口）　29（18-9, 11-16）25　佼成学園女子（東京）

両チームともにサイドシュートの得点で始まったゲームは、前半10分まで全くの互角の展開。その後、華陵が岩崎の速攻、田村のサイドシュート等で波に乗り、18分に6点リード。佼成学園は高いプレスディフェンスから反撃を仕掛けるが、21分の夏日のミドルシュートまで約10分間得点できなかった。華陵は堅実なディフェンスからの速攻などで9点リードし前半を折り返す。

後半序盤、佼成学園は意地を見せて、5分過ぎに笠木のシュート等で5点差に追い上げるが、華陵に退場者が出た好機を生かせずに失点が続き、21分に10点差。終盤、佼成学園は三田の連続ゴールで必死に反撃するが、華陵が4点差で振り切り、決勝に駒を進めた。両チームとも、準決勝に相応しい高い技術を見せた好ゲームであった。

高岡向陵（富山）　20（8-8, 12-9）17　四天王寺（大阪）

前半開始2分。四天王寺は歓木のサイドシュートで先制点をあげて波に乗る。対する高岡向陵も佐々木のロング、カットインで追いかける。四天王寺はクロスプレーから関のロング、堀川の速攻、多田の1対1で3連続得点し相手チームを離しにかかるが、高岡向陵も中間ポストのつなぎや、1対1の攻めで相手ディフェンスを揺さぶり、舘のポストシュート、佐々木のステップ等で3連続得点。両チーム一進一退の攻防を展開し、前半を8対8で折り返す。

後半1分、高岡向陵は退場者を出し、3連続得点を許すが、粘り強い攻めで再び同点とする。勝負が見えはじめたのは、高岡向陵が2点差でリードしていた23分。四天王寺に退場者が出てから。高岡向陵は、佐々木のロング、牛山のサイド、舘の速攻を確実に決めて、20対17で高岡向陵が決勝の切符を手にした。

▼決勝

華陵（山口）　25（10-7, 15-10）17　高岡向陵（富山）

前半、華陵が田村による速攻での2連続得点で始まる。高岡向陵は、立ち上がりに堅さが見られミスが目立った。しかし、11分、高岡向陵1年生エース北原の得点で、徐々に本来のペースを取り戻す。

後半、徐々に華陵の底力が発揮し始める。華陵はディフェンスを堅めて、高岡向陵のセンター横嶋とエース佐々木のプレーを封じ、得点を許さない。高岡向陵は早いパスまわしからノーマークをつくるが、華陵のゴールキーパー水落のナイスセーブが続き、追いつくことができない。その間に、華陵は田村、築山、松本らが着実に加点して、点差を広げる。高岡向陵は最後まで積極的にシュートを放つが、華陵は完璧なディフェンスで反撃を許さず、歓喜のインターハイ初優勝の栄冠に輝いた。

男子優勝チームの声：県立小林秀峰高等学校（宮崎県）

「破己立命」感謝を持って叶った夢

宮崎県立小林秀峰高等学校ハンドボール部監督　北林 健治

このたび、岩手県花巻市で開催されました第62回全日本高等学校ハンドボール選手権大会で初優勝を成し遂げることができました。このような結果を残すことができましたのも学校関係者各位・全国高体連・県高体連の皆様、全国のハンドボールの諸先輩方・仲間・選手たちのお陰であり、選手を育成され小林秀峰に預けてくださった小・中学校の先生方や保護者の皆様、OBの皆様のお陰であると深く感謝していると共に、厚く御礼申し上げます。

私自身、女子の指導からスタートし指導歴からすると20年になりますが、目標は常に「日本一」「全国制覇」だけを見つめて、選手と真剣に向き合いハンドボールを続けさせていただいてきました。チームをもてない時期もありましたし、戦える選手がそろわない状況になったこともありましたが、夢を持って目標を忘れず目の前のことに取り組むことによって、自分自身を鼓舞し我慢強く取り組めてきたように思います。そうする中で諸先輩方が救いの手をさしのべてくれたり、勉強する機会に多く呼んでいただいたり、本当にたくさんの方々に支えられながら、ハンドボールを通じて自分自身を支えてきたように思います。

私が今一番感じていることは、「感謝を持って可能性を信じる」ことの大切さです。

小林工業に赴任してすぐに部訓に掲げた言葉が「破己立命（はきりつめい）」です。これは私が尊敬する、宮崎県立高千穂高校剣道部を何度も全国制覇させた故吉本政美先生の言葉ですが、「己の非を切り邪を破り、自己の改革を行い人生観を確立する」という意味になります。自分自身の殻を破って人生を切り開いていく姿勢というのは当時の私自身にも必要なことでしたし、宮崎のハンドボールにとっても必要なことでした。「自分たちにもできるんだ」と言い聞かせ、思いこませることが至難の業で、本当に苦難の連続でした。

しかし、そうしていく過程で気付いたのは、“選手達はできない”という先入観から指導している自分と、私自身が自分のことについて勉強不足で、自信を持って選手達と接していないことでした。これではいくら頑張っても結果につながるはずありません。まだまだ勉強不足なのですが、選手や私自身ができることに目を向け、ハンドボールができていること自体に感謝することを基本にすること。どんな些細なことにも感謝して、気持ちを前向きに、可能性を信じることが抜けていては、いくら努力・精進を積み重ねても己の殻を破り成果を上げていくことはできないのではないかと思うようになりました。

これまで全国高校総体では決勝に3回進出させていただいています。いずれも敗れているのですが、どれも周りへの感謝を感じつつも自分の力のお陰だという自負が強かったと思います。その後、力のある選手達を持ちながらも、なかなか上位進出にいたらなかったのはそれが原因のように思います。今年はそれまでの反省から、より選手達を信じ選手達の考えや発想に耳を傾け、ミーティングなどを繰り返しながら共にチーム作りに取組んだことが、柔軟で対応力のあるチームに仕上がったのではないかと思います。選手達もキャプテンの荒木健志を中心によくまとまり、選手一人一人からサポートの一人一人まで、それぞれが自分の役割に誇りを持ち、感謝を込めながら粘り強く練習や試合に取り組んだことが、4度目の決勝への挑戦にして初の優勝に結びついた要因ではないかと思います。

最後になりましたが、下宿生の面倒をみてくれている妻や子供達には感謝しかありません。また、東日本大震災で被災をされながらも、何事もなかったかのように大会を運営され、暖かく私たちを迎え入れてくれた岩手県ハンドボール協会の皆様、その他役員・審判員の皆様には心より感謝申し上げます。そして、被災された方々には心からお悔やみを申し上げます。これからも「感謝」を常に心に刻んで精進してまいりたいと思います。この度は本当にありがとうございました。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

女子優勝チームの声：県立華陵高等学校（山口県）

山口県立華陵高等学校ハンドボール部監督　吉兼 敦生

まず始めに、東日本大震災により被災された皆様とそのご家族及び関係者の方々に心よりお見舞い申し上げます。また、大きな被害を受け深い悲しみの中、わずか５ヶ月という短い期間で今大会の開催にご尽力いただきました関係各位、地元岩手県協会、岩手県高体連専門部、花巻市の皆様のきめ細やかな大会運営に感謝申し上げます。

昨年のチームより、全国のトップシーンに顔を出せるようになり、今年度は選抜大会・高校総体・山口国体の３冠制覇を目標に掲げ取り組んできました。３月11日に東日本大震災があり、岩手県で開催される予定だった選抜大会が中止になりました。日毎に増す報道番組での被害の深刻さに「中止も仕方ない」という思いと「３冠にチャレンジするチャンスを失った」という混乱した思いで、自然に涙が溢れてきたのを思い出します。どのチームも選抜大会への思いが含まれた特別な高校総体だったのではないでしょうか。

大会を振り返り、まだまだ完成度の足りないチームですが、以下が自分なりに考えた勝因です。

・中学生時代に日本一を経験した多くの選手が入学し、チーム内でのポジション争いも学年を超えて激しさを増していき、チームメイトの存在が知らず知らずのうちにお互いの力を成長させてくれていた。

・キャプテンの河野を始め、部員26名全員が自分の置かれている立場で「勝つために何をすべきか。」気付き、考え、実践できた。

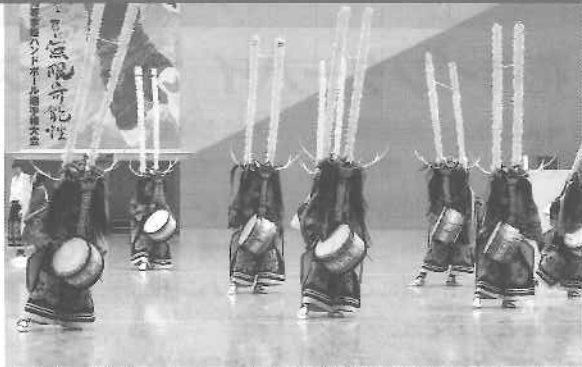
・好チームが集まったトーナメントで、試合ごとに集中できた。

・大会一日目から最終日まですべて第一試合で、調整が非常にしやすかった。

私たちは山口国体に向けて、気持ちも新たに取り組みを始めています。自分の造語ですが、選手に時々「進化無限」とか「心操身」という言葉を使い「現状と未来のあり方」について話をします。この大会での優勝を過信せず、自分たちのコントロールできることを確実にやっていこうと思います。

最後にご支援・ご協力をいただいた県体育協会、県協会、県高体連専門部を始め、華陵高校ハンドボール部を応援してくださった関係者の方々に心から御礼を申し上げます。ありがとうございました。

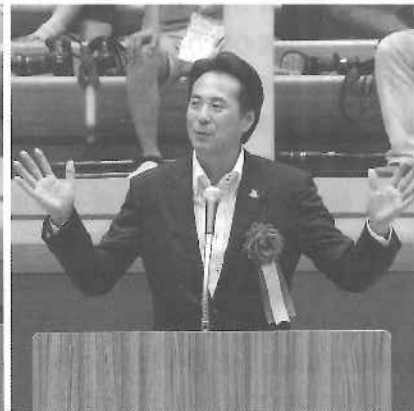
Photo Snap 開会式から

大会メイン会場の花巻市総合体育館

オープニングアトラクションの岩手県立花巻農業高等学校・鹿踊部の皆さん

開会式の司会：盛岡白百合学園高校・放送部の皆さん

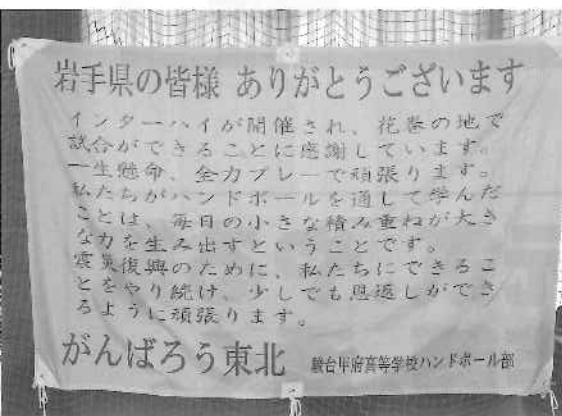
開会宣言：（財）全国高等学校体育連盟ハンドボール専門部委員長・船木浩久氏

挨拶：（財）全国高等学校体育連盟ハンドボール専門部部長・越石信次氏

挨拶：（財）日本ハンドボール協会副会長・川上整司氏

挨拶：花巻市長・大石満雄氏

歓迎のことば：岩手県立花巻南高等学校生徒会執行部執行委員長・佐々木京介氏

選手宣誓：岩手県立不来方高等学校
男子主将：千葉　敦さん　女子主将：佐藤明日香さん

大会関係者の席には被災支援への御礼の横断幕

会場には、参加できることへの感謝の横断幕も掲げられていました。

歓迎アトラクション：岩手県立花巻南高等学校合唱隊の皆さんによる「緑の街に舞い降りて」

東日本大震災の影響により、今年の３月花巻市で開催予定であった全国高校選抜大会が中止となったのは記憶に新しいところである。４か月を過ぎた７月の今、大会参加の選手や関係者を始め大会を支える全ての方の復興に向けた熱い思いが伝わる開会式であった。

北東北総体 花巻インターハイ“サイドストーリー”

今年は、3月11日に起こった東北地方太平洋地震のため、開催自体が危ぶまれた大会でした。実際、準備万端整った、同じ花巻で開催予定であった全国高校選抜大会は残念ながら中止になったことは、ご存知の事と思います。多くの被災者の方もおられる中、大会開催にこぎつけた、大会運営役員の方々の熱意とご努力には、ハンドボール界を挙げて感謝しなければならないでしょう。

大会は、男子、小林秀峰高校、女子、華陵高校の優勝で幕を閉じました。一年間の努力を実らせた素晴らしい成果です。小林秀峰高校は、決して大きなチームとは言えませんが、その良く訓練されたチームプレーは、ハンドボールの面白さを十分に見せてくれたと思います。女子華陵高校は、前年度覇者洛北高校を破っての快進撃は、目を見張るものがありました。

敗れたチームも、すぐさま国体へ向けての準備に入っていると思います。国体では雪辱を期し、さらにすばらしいゲームを展開してほしいと思うところです。

大会内容・結果については例年の通りなされますので、ここではそれ以外の興味ある点について、報告します。

■IDカードで博物館等無料

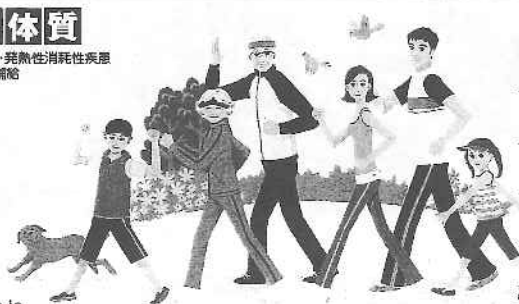
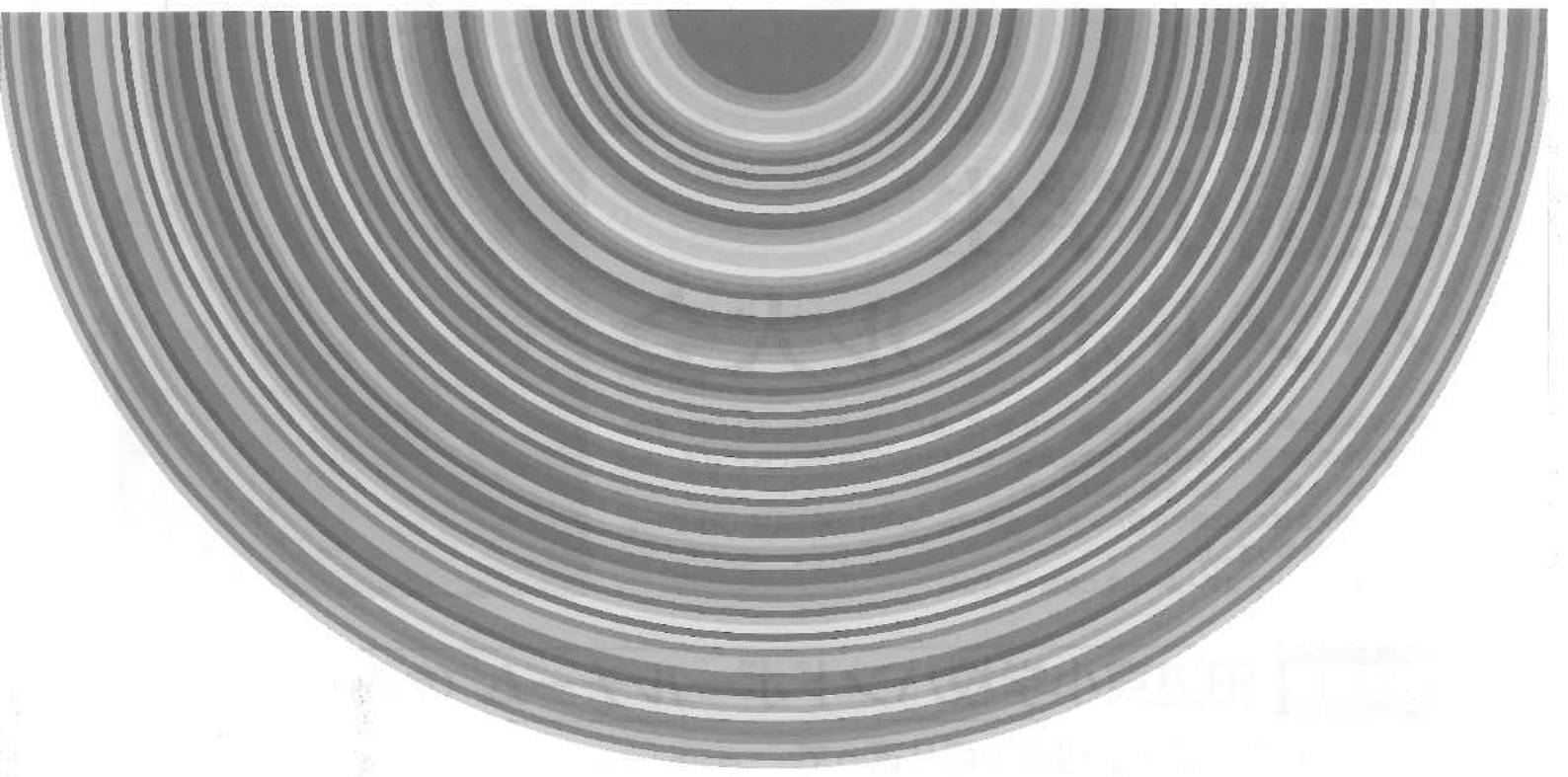
花巻市と言えば、宮沢賢治で有名な所です。宮沢賢治に関する博物館や、展示館が数多くあります。これらの博物館等の入館料は、インターハイのIDカードで無料になると言うことを聞きました。高体連の関係者からは、このようなことは、今回が初めてでなく、過去にもあったとのことです。私たちは、大会に参加するとき、大抵は大会会場へ行って、試合をこなすとそのまま帰ると言うことがほとんどです。大会役員であったりすれば、運営等に忙殺され、なかなか時間が取れないことも確かでしょう。

日本の文化に触れたり、先人の業績に触れることは、人間形成に大きな影響を与えると思います。普段トレーニングに時間を割き、努力を重ねている高校ハンドボールプレーヤーにとっては、地元には無いものに触れる絶好の機会です。ぜひともIDカードのメリットを生かして、ハンドボール活動の糧にしてほしいものです。

■決勝戦後のインタビュー

インターハイ初めての試みとして、決勝戦後、表彰式を待つ間に、インタビューが行われました。担当したのは、花巻北高校の放送部の皆さん。インタビューされたのは、男女の決勝戦を戦った監督さんとキャプテンの皆さん。どちらかと言えば、インタビューされる方が場慣れしていると言った状況ですが、表彰式を待つ間、観客席も時間を持て余すことなく微笑ましい光景でした。

男子優勝の北林監督へのインタビュー

花巻北高等学校放送部の皆さん

第24回
全国小学生ハンドボール大会

第24回全国小学生ハンドボール大会は、7月29日（金）～30日（日）の3日間、京都府京田辺市の京田辺市中央体育館・同志社大学京田辺キャンパス体育館で男子33チーム、女子30チームが集い、熱戦を繰り広げました。
男子は、地元京都の田辺東小学校ハンドボールチーム、女子は沖縄の浦城ハンドボールクラブが優勝を飾りました。
（試合結果の詳細はスコアールームをご参照ください）。

写真提供は、全てスポーツイベント社

男子優勝　田辺東小学校ハンドボールチーム（京都府）

19年ぶりの全国大会優勝を振り返って

田辺東小学校ハンドボールチーム男子監督　乙村 直人

あっという間に過ぎていった全国大会の3日間。ここまで辿り着くのに長い道のりでした。

3年前、ハンドボールをはじめたこの子たちは、私が19年前に田辺東小学校で全国優勝していることを聞くと、口をそろえて「全国大会で優勝したい！」と言っていました。3・4年生の練習は週に1回だというのに、休み時間や放課後を使って、毎日自主練習を重ねてきました。子どもたちの目標に向けて、こちらもできるだけのことをしてやりたいと思い、基礎的な練習を増やし、3・4年生には少しきついトレーニングもしてきました。しかし、だれ一人弱音を吐くことなく、6年生10人はこの全国大会優勝まで辿り着くことができました。子どもたちのひたむきな努力、3年越しの思いが達成できたことに感激し、大変うれしく思っています。

今年のチームは、大会のたびに誰かがけがや病気をすることが多く、全員がそろうことがなかなかありませんでした。京都府予選でも、準決勝・決勝とレギュラーの選手が病気で欠場しました。全国大会では、そのようなことがないように、こちらも体調管理・けがには注意をはらっていたのですが、1日目、エースの選手が足を痛め、不安が残る中、試合をすすめていくことになりました。しかし、それぞれの選手が支え合い、勝ち進むことができました。

決勝戦で対戦した東久留米HCはポジションチェンジをしながら、ポストにきれいなパスを通すチームでした。準決勝を見ていてもチームの雰囲気がよく、選手や監督さんにも勢いのあるチームでした。

前半3点差で折り返しましたが、選手には少し余裕のある表情が見て取れ、優勝を確信することができました。その余裕の裏側には、地元ならではの大応援団とやりなれている体育館ということがあったのかもしれません。それ以上に京都府予選の準決勝で松井ヶ丘小学校に前半3点差で折り返した経験があったからこそ、この大舞台で余裕を持てたのではないかと思います。後半はのびのびとプレーし、力をしっかりと出し切ることができました。

ハンドボールを通して、目標に向かい、ひたむきに努力することの大切さを感じることができました。新たな目標に向かって、子どもたちと進んでいきたいと思います。

最後にいつも見守ってくださった保護者のみなさん、子どもたちの相手をしてくれた培良中学のみなさん、全国大会で応援してくださったみなさんに心から感謝とお礼を申し上げます。

【最終順位】

■男子

1位：田辺東小学校ハンドボールチーム（京都府）
2位：東久留米ハンドボールクラブ（東京都）
3位：木田ブルーロケッツ 2000（福井県）
4位：東海ハンドボールスクール（愛知県）

■女子

1位：浦城ハンドボールクラブ（沖縄県）
2位：桃園小学校ハンドボールクラブ（京都府）
3位：上庄ハンドボールクラブ（富山県）
4位：平針南ハンドボールクラブ（愛知県）

女子優勝　浦城小学校ハンドボールクラブ（沖縄県）

悔しさバネに—（3度目のチャレンジ）

浦城小学校ハンドボールクラブ監督　粟國 茂則

やった～！　創部22年目にして全国初優勝！

思えば、浦城小学校ハンドボールクラブが全国大会に初出場したのは第19回大会でした。予選は突破したものの、決勝トーナメント1回戦で優勝チームである富山県代表の上庄ハンドボールクラブに敗れベスト8で終わり、その後は沖縄県内で成績を残せず全国大会には出場出来ませんでした。昨年第23回大会へ4年振りに出場しましたが、ここでも優勝チームである愛知県代表の東海ハンドボールスクールに準決勝、1点差で惜敗し3位で終わり、子供達をはじめ指導者も大変悔しい思いをしました。

また、今年5月に県内で開催された新人戦で宮城小学校ハンドボールクラブに1点差で敗れ決勝トーナメントにも出場出来ず悔しい思いと1点の重みを再度経験しました。この事でチームが一つになり、特にキャプテンである金城ありさを中心とし、全国小学生沖縄県予選大会では女子Aパート13チームのトップになり、昨年に引続き全国大会へのキップを手にしました。

その後は校区である仲西中学校や港川中学校ハンドボール部の先輩達と練習試合を重ね全国大会へ。全国大会では予選を突破、決勝トーナメント1回戦の相手は今年の1月に九州大会で決勝を戦った日岡ハンドボールスポーツ少年団。過去に2回の優勝経験を持つ強豪でしたが、勝利し昨年同様に準決勝へ。相手は5年前に敗れた富山県代表の上庄ハンドボールクラブでした。前半は緊張からか思うように点も入らず苦戦を予想していましたが、ダブルポストからの攻撃が決まり、20対8で勝利。初の決勝戦へと駒を進め、決勝の相手は地元京都代表の桃園小学校ハンドボールクラブ、男子の決勝は京都代表の田辺東小学校ハンドボールチームが優勝した事で当然、応援では地元有利である事は覚悟していました。決勝に向かう子供達には「練習した事をやろう！」そして「最後のゲームを楽しもう！」でした。会場に入ると父母だけではなく、神森小学校ハンドボールクラブや九州地区のチームの声援もあり、子供達も力を発揮する事が出来ました。ありがとうございます。勝因は昨年の全国大会1点差で敗れた事や今年5月の県内大会に於いて1点差で敗れた事が「悔しさをバネに」子供達を大きく成長させ全国初優勝が出来たと思います。

そして、全国大会派遣に支援をしていただいた県ハンドボール協会関係者や派遣費など経済的な支援をしていただいている浦添市、共催、協賛企業の方々や父母、学校、県内小学生チーム、子供達全てに関わりを持ち支援していただいた方へ感謝しております。最後に小学生の目標である全国大会を開催されている京都ハンドボール協会のスタッフに心から感謝を申し上げます。

第16回
ジャパンオープン
ハンドボールトーナメント

ぎふ清流国体ハンドボール競技リハーサル大会

■最終順位■

【男子】
優勝：Honda（三重県）
2位：長崎社中（長崎県）
3位：HC 岡山（岡山県）
4位：HC 岐阜（開催地・岐阜県）

【女子】
優勝：香川銀行T・H（香川県）
2位：HC 高山（開催地・岐阜県）
3位：徳山クラブ（山口県）
4位：京都クラブ（京都府）

第16回ジャパンオープンハンドボールトーナメントをふり返って

岐阜県ハンドボール協会理事長　名倉 昭弘

いよいよ来年に迫った「ぎふ清流国体」のリハーサル大会として、第16回ジャパンオープンハンドボールトーナメントを、8月5日（金）から9日（火）まで、国体の開催地となる高山市、下呂市、飛騨市の3市において開催いたしました。会場は国体で使用する高山市の飛騨高山ビッグアリーナ、高山市立中山中学校体育館、下呂市の下呂交流会館、あさぎりスポーツ公園体育館、飛騨市の桜ヶ丘体育館の計5会場で男子32チーム、女子16チームの熱戦が繰り広げられました。

今大会は国体のリハーサル大会として開催され、準備・運営には「ぎふ清流国体」の3市の実行委員会の全面的なバックアップをいただきました。高山市は競技人口が少ない中、小学校・中学校・高校と県のトップを争う競技力をもつ地域で、高山市協会と多くのOBの方の協力で競技運営を行っていただきました。一方、下呂市と飛騨市は下呂市に高校チームが1つあるだけで、ハンドボール競技を見たことのない人が多く、競技役員・補助役員は岐阜地区、中濃地区の役員・高校生が宿泊しながら運営していただき、何とか無事大会を終えることができました。改めて、3市の実行委員会と大会運営にご協力をいただいたボランティアの皆様に心よりお礼申し上げます。

さて、大会は、5日に飛騨・世界生活文化センターにおいて和やかな雰囲気の中で行われた開会式で幕を開けましたが、男子のB.I.G（沖縄）が台風の影響で飛行機が運航中止になり、開会式に間に合わず、先に出発していた代表者1人だけの出席となりました。代表者からの要望もあり、翌日6日の試合を最終時間に変更することで、なんとか大会参加ができるよう配慮し他のチームにもご理解をいただきましたが、翌日飛行機が運航されたのが12時ちかくになりキャンセル待ちのチケットもとれない状況になり、やむなく棄権となりました。

翌6日から、男子は高山市の2会場とそこから40km離れた飛騨市会場、女子は高山から40km離れた下呂市の2会場で行われました。下呂市の下呂交流会館のみが冷房施設があり快適な環境の中ゲームを行うことができました。他の4会場は冷房施設がありませんが、ゲームの前後半の間や、ゲームの間でカーテン・窓の開放にご協力いただいたこと、モップ係にはハンドボールのゲームを数回しか見たことのない中学生もいましたが、熱心に取り組んでくれたおかげで多少競技時間は遅れたものの無事終えることができました。

大会は、男子のHonda（三重県）と女子の香川銀行T・H（香川県）が昨年度に続き優勝の栄誉に輝きました。2連覇のHondaと5連覇の香川銀行T・Hの両チームに心から敬意を表したいと思います。また、男子決勝では、長崎社中（長崎県）が最後までHondaを苦しめ来年度の活躍が期待されます。3位決定戦となった初出場の地元HC岐阜（岐阜県）とHC岡山（岡山県）のゲームも仕事の関係で両チームメンバーが少ない中ですばらしい戦いを見せてくれました。女子決勝では、地元HC高山が多くの応援の中、安定した戦いで決勝まで進み、女王香川銀行T・Hにチャレンジ、最後まであきらめない戦いを見せ内容なあるゲームを見ることができました。3位決定戦の徳山クラブ（山口）と京都クラブ（京都）の戦いもすばらしいパフォーマンスでした。その他、どのゲームも各地区の予選を勝ち抜いてきただけにすばらしいゲームが多く、補助役員の高校生ハンドボール部員に大きな刺激になりました。

今回の大会を終えて、準備不足、競技運営その他大会運営の面でさまざまな課題が見つかりました。これからの1年間、高山市、下呂市、飛騨市の実行委員会と一層の連携を図りながら、諸課題の改善・解決に努め、来年の「岐阜国体」では万全の態勢で皆様をお迎えしたいと心を新たにしたところです。

最後になりましたが、今大会の開催にあたりご支援・ご協力いただいた日本協会、審判員、競技役員、協賛各社、地元OBの皆様、そして参加チームの皆様に心よりお礼申し上げますとともに、来年の岐阜国体の成功に向けて一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。「ぎふ清流国体」への皆様のお越しを心よりお待ち申し上げます。

男子優勝：Honda（三重県）

ジャパンオープンを終えて

Honda ハンドボール部　青山　翼

今回２度目の挑戦となったジャパンオープン。前回大会では、前々回大会まで２連覇を果たしていた OB チーム『三重ホンダクラブ』のプレッシャーもありながら激闘を制し初優勝、三重県勢としては３連覇を達成しました。今年もジャパンオープン本選出場、そして年末に行われる『全日本総合選手権大会』の出場権を得る為、県予選・東海予選を危なげなく勝ち進み１位通過で本選への出場権を獲得し、今大会２連覇を目指し前回大会の経験を生かし大会入りしました。

本選では、１回戦、２回戦とも初めから決勝の気持ちで試合に臨み、昨年から取り組んでいるアタッキングな DF を持って臨みました。昨年よりも精度が上がり、相手 OF のミスを誘う様な動きも出来ました。逆に個々の動きの連動が出来ていなかった場合は、その都度チーム内で修正を行い、より精度を上げた DF にしようと選手自らアイデアを出しながら展開していき失点を少なく抑えて勝ち進む事ができました。

準々決勝では、徳山クラブとの対戦でした。１回戦、２回戦同様に前半から優勢に進めていき、後半からは若手選手も起用して、選手全員が得点する事が出来ました。

準決勝は、地元国体強化チームでもある HC 岐阜。DF 隊形もこれまでと同様のアタッキングな DF で臨みました。前半の序盤から相手のミス等から速攻につなげ着実に得点を重ねていき、13 点差をつけ勝利する事が出来ました。

決勝は、昨年の決勝の相手でもあります、長崎県代表の長崎社中。前半から一進一退の攻防が繰り広げられ１点リードで前半を折り返しました。

後半に入る前にもう一度チームで気合を入れ直して挑みました。後半に入っても２点差以上放す事が出来ずに接戦を繰り広げていきましたが、前半のリードを守りきり１点差で勝利し大会２連覇を達成し、年末に行われます全日本総合選手権大会への出場権を獲得する事が出来ました。

今大会はチーム全員がコートに立ちプレー出来た事、また全員が得点をあげられた事は貴重な経験だと思います。

この大会の経験を糧にこれから全日本総合選手権大会に向けて更なる強化、進化を目指し、チーム一丸となり頑張ってまいります。そして目標のベスト４進出を目指します。

最後になりますが、今大会までに練習試合をさせていただいた、各大学チーム関係者の方々と、審判やその周りでサポートしてくださった方に、誌面をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

女子優勝：香川銀行Ｔ・Ｈ（香川県）

ジャパンオープン５連覇達成

香川銀行チームハンドボール部副主将　藤井　優

５連覇かけた今年のジャパンオープントーナメントでは、"優勝" という２文字だけを胸にチーム一丸となって挑みました。そしてただ優勝するだけではなく、チームカラーである "DFから速攻" を徹底し１試合１試合自分たちの納得のいくゲームをすることを目標としました。

ベテランが２人抜け、OF・DFともに不安を持ちながら新チームがスタートして半年がたちました。何をやってもうまくいかない時期もありましたが、他のどのチームにも負けない団結力で壁を乗り越えてきました。

今大会の参加チームが国体に向けての強化によりレベルが上がっている中で、実業団として必ず５連覇を達成しなければいけないというプレッシャーもありましたが、この半年間やってきたことを自信に変え大会に臨みました。

初戦から、緊張なのか硬さも目立ちなかなか自分たちの納得のいく戦いができませんでした。それでもコートに立つ全員が自分たちのカラーである "DFから速攻" を徹底し、毎試合走り続け勝利することができました。

今大会を通し、試合の中で修正する力や判断力など様々な課題が明確になりました。まだまだ不安定で課題も多いチームですが､次に開催される国民体育大会や全日本総合に向け、チーム力向上に加え個々のレベルアップを目指し努力していきたいと思います。

また試合会場には、遠方からたくさんの方々が足を運んで下さり、暖かく心強い応援を頂きました。いつも応援して下さる皆様の支えがあっての優勝であり、感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりましたが、香川銀行をはじめ、ハンドボール協会各位、OGの方々や保護者の方々、チームにご支援・ご声援頂きました皆様に心より感謝申し上げます。

チーム一同、次なる目標に向かって努力し続けていきますので、まだまだ進化し続ける香川銀行チームハンドをこれからもよろしくお願い致します。

平成 23 年度 第 19 回 全日本 ハンドボール マスターズ大会

最終順位

11 人制　優勝：HC 名古屋 ATF(B)・中部ドリームズ・HC みやびマスターズ・BABAR'S　　2位：神楽坂フェニックス
7 人制　［男子］優勝：下松クラブアダルツ　　2位：ＧＧ’Ｓ　　3位：オールドフェイス
　　　　［女子］優勝：御座姐　　2位：富山エンジェルス　　3位：小松クラブ

第 19 回全日本マスターズ大阪大会を終えて

大阪ハンドボール協会理事長　**中村 博幸**

回を重ねる毎に広がっていくこの大会。今年は東北大震災の復興を願いながらの開催となりました。

懐かしい顔ぶれが久しぶりに大阪の地に集結し、３日間にわたる熱戦が繰り広げられました。

初日は、第８回全日本 11 人制マスターズハンドボール大会が大阪市舞洲の天然芝生グランドで６チーム参加のトーナメントで行われました。約 100 名の参加選手の中で最高年齢は 80 歳の太田耕治選手（HC 名古屋 ATF チーム）でした。頭の下がる思いでいっぱいです。日本協会でも是非、太田選手へのインタビューをお願いしたいものです。

途中雨の降る悪天候でしたが、選手のみなさんは炎天下よりはましと、年齢を感じさせない運動量でボールを追い、大きなケガ無く終えることができました。

２日目は７人制が行われ、５会場８コートを使っての運営となりました。

今年は男子交流型 40 チーム、同順位決定型 13 チーム、女子交流型 16 チーム、同順位決定型６チーム、総勢過去最多の 921 名の参加となりました。

日本ハンドボール協会副会長の市原則之様、鶴保庸介様も監督・選手として出場され、また数名の元ナショナル選手の方々も出場され、多彩な顔ぶれで、往年の“名？プレー”を披露していただきました。大阪の一般観客の皆さんからも「年をとっていても凄いですね！」と感心の声があがっていました。まさに大会の趣旨である「ハンドボール愛好者が年齢の壁を超えて一堂に集い、ハンドボールを通してスポーツを楽しむ」という姿に各コートで歓声・拍手がおこっていました。お昼の時間帯には、ちびっこ達も Over60 の皆さんと一緒にハンドボールに親しんでもらい、和やかなひとときを過ごしてもらいました。子供達はミニハンドボールのプレゼントに大喜びでした。

夜には、大阪キャッスルホテルで約 420 名参加の開会式及び大懇親会を行いました。日本ハンドボール協会副会長・多田博様、大阪ハンドボール協会会長・奥浜清氏のご挨拶の後、市原則之副会長の乾杯の音頭によって大懇親会が開始されました。全国からの懐かしい顔ぶれに、途中から若い頃にタイムスリップしたかのように、各所で昔話に花が咲いていました。途中、私の教え子達の摂津倶楽部（女子）による AKB もどきの歌・ダンスが披露され、制服姿の初々しさに、会場の皆様から大きな声援、拍手をいただき、大変盛り上がった余興になりました。

３日目は、選手の皆さんはさすがに年齢には勝てないのか、疲労のせいか、ストレッチの時間がやたら長く、トレーナーブースへ来てのテーピングサービスを受けられる姿が目立ちました。ちなみにテーピングサービスを受けられた選手は延べ 100 人を超えたそうです。アキレス腱を切った選手が一人いましたが、その他大きなケガがなく無事終えたことが何よりでした。

この大会を通して、お互いに親交を深められ、今後に向けて健康志向への意識を高め、ハンドボール界の発展に貢献しながら、次年度第 20 回記念大会の豊田市でお会いできることを楽しみにしております。

最後に、本大会の開催にあたり、ご尽力いただきました関係者の皆様方に心からの敬意と感謝を申し上げますと共に、大阪大会を成功裡に導いて頂きました選手の皆様方に御礼を申し上げ、結びの言葉と致します。

「次回豊田でお会いしましょう！」

チーム代表者からのメール

今回、マスターズ大会に参加させて頂きました、拝島ブルーウッドの黒部です。
開催事務局の方々には、本当にお疲れさまでした。そしてありがとうございました。
我がチームは今年で3回目の出場と、新人チームではありますが、3年前に初参戦してからは、毎年楽しみにしております。
今回も、とても楽しく過ごさせていただきました。
山崎様をはじめ、事務局の方々に心から感謝致しますとともにお礼を申し上げます。
また、来年名古屋での記念大会を楽しみに練習に励みたいと思います。お疲れさまでした。

静岡マスターズ代表の西室です。
大会運営、大変お疲れさまでした。
また、われわれが心からハンドボールを楽しむ時間を用意して下さって、重ねてお礼申し上げます。
チームの成績が良かったこともありますが、今回の大阪大会は運営その他あらゆる面で思い出に残る素晴らしい大会でした。
図々しくも、また近いうちに大阪で開催していただくことをお願いして、取り急ぎお礼のメールをさせていただきます。

この度の『第19回　全日本マスターズハンドボール大阪大会』では大変お世話になりました。
本部STAFFの方々にもお忙しい中、沢山の気配りを頂き、有難うございました。
いつも以上の楽しい大会で、沢山の思い出もできました事をチームメンバー全員で感謝しております。
本当にありがとうございました。
FJC　岡田真樹

大会の運営お疲れさまでした。又、お世話になりありがとうございました。
当チームのメンバーもたのしい2日間が過ごせたと大変に喜んでました。
予想以上に素晴らしい大会で感激しました。参加させてもらって本当によかったと思っております。
メンバーの皆から「又やりたいなー」と言う声も上がってますので、来春の「近畿マスターズ大会」への参加を真面目に考えていきたいと思っております。お手数をおかけい致しますが詳細等が決まりましたらご連絡いただければ幸いです。
どうぞよろしくお願いします。
本当にお疲れさまでした。又、お会いできる日が来るように努力いたします。
都島クラブ　吉田五郎

松門会（東京）の森と申します。
このたびの大阪大会は誠にお疲れ様でございました。
大規模な大会ゆえ、準備の大変さは想像以上のことと推察いたします。
おかげさまで、大変楽しい週末を過ごすことができました。
交歓会も大盛り上がりで楽しかったです。
本当にありがとうございました。
取り急ぎ、御礼のみにて失礼いたします。
松門会　森 哲也

過去最高の参加チームであったにもかかわらずとてもスムーズに試合が行われ、楽しく有意義な2日間を過ごすことができました。
ありがとうございました（＾＾）
今回は大阪での開催だったので、いつも以上に懐かしい人にも多く会うことができました。
WAKUNAGA　岡村和美

このたびのマスターズ大会、本当にお世話になりました。
お陰さまで楽しいひと時を過ごすことができました。
年々、参加チームも増え、盛況なのは嬉しい限りですが準備をされる皆さんのご苦労は、これまたどんどん大変になっていってると思います。
まだ、片付けなどが残っているのかもしれませんが、どうぞお疲れがでませんよう、ご自愛ください。
WAKUNAGA　服部秀人

スタッフの皆さんにもくれぐれも宜しくお伝えください。
ありがとうございました。
早々にマスターズ結果報告メールありがとうございます。
初のマスターズで緊張しましたし、全国レベルを目の当たりにして高卒の主婦チームが出ちゃっていいのかって思い知らされましたが楽しくゲームに参加させていただきました。
来年の豊田でのマスターズでは1勝できるよう練習していきたいと思います。
色々とありがとうございましたｍ(＿＿)ｍ
ふくちゃんず代表　稲垣小百合

お疲れさまでした。
大会の運営、お世話、連絡等、色々有り難うございました。
改めてハンドボールの楽しさを感じ、チームの皆も喜んでおりました。
また参加出来るよう、コツコツ練習したいと思います。
有り難うございましたm(_ _)m
樫さんクラブ　神並知香子

こちらこそ、ありがとうございました。
毎年、楽しい大会に参加させていただいています。
懇親会に於いて、ご挨拶をさせていただく予定でしたが、場が盛り上がりすっかり忘れていました事を、この場をお借りしてお詫び申し上げます。
大会役員様のお蔭で楽しい大会が続きます事をお祈りしまして、お礼の言葉とさせていただきます。
ほんとうに、ありがとうございました。
兵庫選抜　松本

大会運営ご苦労様でした。大阪で地理的に便利なため、今回初参加させていただきました。体は悲鳴を上げていますが、楽しかったです。ありがとうございました。
チームKAGAWA代表　植松朋子

この度は、マスターズ大阪大会にて大変お世話になりました。
今年もとても良い大会で、いい思い出となりました。
試合結果も早々に送信していただき、正直驚きました。
細かいところまでご配慮が行き届き、とても気持ちよく大会を終えることができました。
舞洲アリーナではゲームも審判も2試合させていただきましたが、高校生の皆さんが一生懸命にオフィシャルやモップ係をしている姿にとても好感がもてました。
山崎様をはじめ、大阪ハンドボール協会の皆様方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。
来年のマスターズ第20回記念大会は私どもの地元、豊田での開催となります。
地元チームのひとつとして県外から参加されるチームの皆様に気持ちよく試合をしていただき、良き思い出が一つでも多くできるよう実行委員会と協力して準備をしていきたいと思います。
それでは失礼いたします。
中京オールスターズ　松平

11人制集合写真

順位決定型集合写真

第1回ＪＨＬジュニアカップ

日本ハンドボールリーグ機構事務局長　**羽田 裕一**

日本ハンドボールリーグ機構は、これまでも日本リーグ加盟チームの社会貢献と地域密着活動の一環として、小学生～高校生の講習会を積極的に行っておりますが、この度、３年以内をメドに各チーム傘下にジュニアチーム（小学生チーム）の設立及び運営を義務付けることとなりました。そのジュニアチームの一つの活動の場として、本大会を開催することとなりました。既に傘下にジュニアチームを保有しているチームもありますが、できるだけ門戸を広げるために、今回は選抜チームの参加も認めることと致しました。

大会は、夏休みを利用して、加盟チームの所在地によって東西２つのブロックに分け、１回戦総当りのリーグ戦を行いました。また、大会以外にも夏休みの思い出となるように、それぞれの開催地でイベント及び全員参加の交流会（食事会）を行なったり、日本リーグ加盟チームのＯＢや現役選手１名が必ず帯同するなど、従来にない工夫も施しました。

東ブロックは、８月５日～７日に北陸電力福井体育館フレアで開催、男女とも５チームが参加し、いずれも北陸電力ジュニアブルーロケッツが１位となりました。

【東ブロック・男子優勝】北陸電力ジュニアブルーロケッツ

【東ブロック・女子優勝】北陸電力ジュニアブルーロケッツ

【西ブロック・男子優勝】琉球コラソンジュニア

【西ブロック・女子優勝】琉球コラソンジュニア

西ブロックは、８月４日～６日に、山鹿市総合体育館で開催、男子５チーム、女子４チームが参加し、男女とも琉球コラソンジュニアが１位となりました。

来年３月 10 日～ 11 日に東京・駒沢体育館で開催致します「第 36 回日本ハンドボールリーグ　プレーオフ」の際に、東西１位チーム同士の対戦を予定しております。その際にも素晴らしいプレーを披露してくれるものと期待しています。

参加チームの多くが日本リーグ加盟チームと同じユニフォームを着て試合に臨み、全てのプレーヤーが最後まで諦めずに一生懸命にプレーする姿に心を打たれました。特に、西ブロック開会式では、地元 YAMAGA ジュニアピンディーズの男女キャプテン（渡辺君、横手さん）が「今年３月 11 日に発生した東日本大震災が発生…」から始まり、「大変苦労されている皆さんのためにも一生懸命に頑張ることを誓います」という主旨の選手宣誓に、来賓、役員一同、感動し、思わず目頭が熱くなってしまいました。まさにその宣誓通り、全ての選手が一つのボールに集中し、とても小学生とは思えない素晴らしいプレーと試合を展開してくれました。

また、イベント（東ブロックは福井県立恐竜博物館の見学、西ブロックは国指定重要文化財である八千代座の見学）や食事会を通じて、選手、チーム役員、運営役員の交流を深めることができました。

今回参加した子供たちの中から、近い将来に日本リーグ選手として、また日本代表選手として活躍してくれる選手が必ず出てくるだろうと大いに期待が持てる大会でした。

開催にあたっては、開催県協会（福井県、熊本県）、市（福井市、山鹿市）及びチーム（北陸電力、オムロン）の皆様に大変なご尽力とご協力を頂きましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、積極的に参加を支援して頂いた日本リーグ加盟チームの皆様にも厚く御礼申し上げます。

今回は諸事情で参加できなかったチームがあったのが残念でしたが、全チームが参加できるように来年度に向けて準備を進めたく考えておりますので、今後も皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

【東ブロック・男子】順位表　(8/7（日）終了　最終順位)

	順位	北電	大同	ハニ	名古	大崎	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	北陸電力 ジュニア ブルーロケッツ		24 ○ 16	27 ○ 12	17 ○ 8	22 ○ 6	4	4	0	0	90	42	48	8
2.	大同 フェニックス 東海	16 ● 24		25 ○ 4	20 ○ 3	31 ○ 8	4	3	0	1	92	39	53	6
3.	ハニービー ジュニア	12 ● 27	4 ● 25		12 ○ 7	13 ● 16	4	1	0	3	41	75	-34	2
4.	ＨＣ名古屋 ハンドボール スクール	8 ● 17	3 ● 20	7 ● 12		17 ○ 11	4	1	0	3	35	60	-25	2
5.	大崎オーソル 坂戸	6 ● 22	8 ● 31	16 ○ 13	11 ● 17		4	1	0	3	41	83	-42	2

※勝敗（○△●）の上が得点、下が失点を表す。

【東ブロック・女子】順位表　(8/7（日）終了最終順位)

	順位	北電	大同	ハニ	名古	大崎	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	北陸電力 ジュニア ブルーロケッツ		17 ○ 5	13 ○ 5	19 ○ 8	24 ○ 2	4	4	0	0	73	20	53	8
2.	大同 フェニックス 東海	5 ● 17		13 ○ 8	14 ○ 7	14 ○ 5	4	3	0	1	46	37	9	6
3.	ハニービー ジュニア	5 ● 13	8 ● 13		10 ○ 8	13 ○ 6	4	2	0	2	36	40	-4	4
4.	ＨＣ名古屋 ハンドボール スクール	8 ● 19	7 ● 14	8 ● 10		12 ○ 4	4	1	0	3	35	47	-12	2
5.	大崎オーソル 坂戸	2 ● 24	5 ● 14	6 ● 13	4 ● 12		4	0	0	4	17	63	-46	0

※勝敗（○△●）の上が得点、下が失点を表す。

【西ブロック・男子】順位表　(8/6（土）終了最終順位)

	順位	琉球	湧永	SAKU	YAMA	広島	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	琉球 コラソン ジュニア		22 ○ 14	23 ○ 9	26 ○ 3	32 ○ 8	4	4	0	0	103	34	69	8
2.	湧永 レオリック 安芸高田	14 ● 22		24 ○ 9	27 ○ 13	26 ○ 10	4	3	0	1	91	54	37	6
3.	BLUESAKUYA ジュニア	9 ● 23	9 ● 24		14 ○ 9	22 ○ 8	4	2	0	2	54	64	-10	4
4.	YAMAGA ジュニア ピンディーズ	3 ● 26	13 ● 27	9 ● 14		17 ○ 8	4	1	0	3	42	75	-33	2
5.	広島メイプルレッズ ジュニア スポーツクラブ	8 ● 32	10 ● 26	8 ● 22	8 ● 17		4	0	0	4	34	97	-63	0

※勝敗（○△●）の上が得点、下が失点を表す。

【西ブロック・女子】順位表　(8/6（土）終了最終順位)

	順位	琉球	SAKU	広島	YAMA	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	琉球 コラソン ジュニア		22 ○ 5	34 ○ 5	26 ○ 1	3	3	0	0	82	11	71	6
2.	BLUESAKUYA ジュニア	5 ● 22		8 ○ 7	8 ○ 4	3	2	0	1	21	33	-12	4
3.	広島メイプルレッズ ジュニアスポーツク ラブ	5 ● 34	7 ● 8		11 ○ 1	3	1	0	2	23	43	-20	2
4.	YAMAGA ジュニア ピンディーズ	1 ● 26	4 ● 8	1 ● 11		3	0	0	3	6	45	-39	0

※勝敗（○△●）の上が得点、下が失点を表す。

企画・広報委員
早川　文司

来年のロンドンオリンピックを目指すアジア予選が行われる10月になった。男女ともレベルアップへ８月にはヨーロッパに渡り、腕を磨いた。

韓国での男子には11カ国が参加、２組分かれて予選リーグを行い、各組２位までが決勝トーナメントに進む。日本はB組で宿敵韓国をはじめ中国、カザフスタン、オマーンと当たるが、厳しい組み合わせになった。

９カ国が出場する女子も競技方式は男子と同じ。日本は韓国、北朝鮮、カタールとB組に組み込まれた。こちらも韓国と言う"強敵"と戦うことになったが、広州アジア大会準決勝で歴史的勝利を挙げている。互いに手の内は分かっている対決。「ロンドン」への道を切り開くパワフルな勝負を期待したい。

そのオリンピック予選のため、こちらも10月に開かれる山口国体には、スケジュール的に当然ながら日本代表選手は男女とも出場しない。それだけ各チームの戦力が接近し、緊迫感のある試合が多く見られることにはなるだろう。しかし、トップレベルのプレーという点からは、少し疑問符がつくかもしれない。

アジア予選が秋に行われるのは、以前から予想されていたことだ。それならば今回はせめて日本リーグ加盟チームの参加を見送るべきではなかったかと思う。

それによって、例年なら出場できないチームに門戸が開放され、晴れの舞台を踏める"希望の灯"がともったはずだ。国体の一つの基本理念でもある「国民スポーツ」の発展、普及に貢献できたのではないかとも思う。夢に描いた「国体」という場で思いっきりプレーできる感動を与えることができたとも言えよう。

国体は国民の健康を増進し、スポーツをする喜びを分かち合える場だと私は以前から認識している。トップアスリートのプレーは、確かに振興・普及に貢献する。でも、一方でトップアスリートの参加によって、出場を果たせないアスリートが多いのも事実である。

出場させるか、させないかは、日本体協加盟の各競技団体に委ねられているという。その一例がバレーボールだ。Vプレミアリーグに加盟するチームは、それぞれのチームの判断に任されている。出場するチームもあれば、しないチームもある。これも納得しにくい中途半端な参加基準だろう。それは「国体」をどうとらえているか、あるいは地方体協の問題もあろう。

日本体協は国体改革論議でトップアスリートの参加を呼び掛けている。でも、国民の関心はやや後退しているのが現実だ。これからの国体をどのような姿にしていくのか。トップリーグの参加を義務づけるのかを含めて"将来像"を今一度、しっかりと議論し、方向性を見出していくべきではないだろうか。

さらに新しくなりました！

NEU PREMIUM®

ノイ プレミアム新登場！

私も飲んでます！

山田邦子さんもご愛飲！

水道水を
水素豊富水に！

6カ月間 メンテナンス 不要

原材料は 1.5倍増量

水素(H_2)と有害な活性酸素の働き

体内の有害な活性酸素の蓄積は、環境、タバコ、酒、ストレス、紫外線などが原因の一つであると言われています。水素(H_2)はこの有害な活性酸素と反応し、水(H_2O)になり、お体を健康へと導いてくれます。
1日1.5ℓ～2.0ℓの水素水を何回かに分けて飲用する事が大事なポイントです。

特にこんな方におすすめ！

- 健康を維持したい方
- 激しい運動をする方
- 体調管理が必要な方
- ストレスのある方

※本製品は商品改良のため予告なく変更する場合があります。

www.dr-suisosui.com

株式会社 FDR・フレンディア
〒150-0041 東京都渋谷区神南1-9-2 大畠ビル5F 502号
Tel:03-5728-0132 Fax:03-5728-0138

フリーダイヤル 0120-372-132（みんなに いーみず）

水素についてもっと詳しくお知りになりたい方は下記のサイトをご覧下さい。
各大学機関が各学会誌に論文を発表しております。
http://suisosui.org/

ロンドンオリンピックに向けて④

ロンドンオリンピック出場に向けての激励!!

――ミュンヘンオリンピック出場メンバーから

ミュンヘンオリンピックに出場したメンバーの中から6名の方にロンドン五輪アジア予選に出場する日本ナショナルチームに対して激励を頂戴しましたのでご紹介します。コメントは木野実、佐々木健一、近森克彦、野田清、氷海正行、本田洋(50音順)の各氏です。1972年のミュンヘンオリンピックでハンドボール競技は36年ぶりに復活し、16ヵ国による男子7人制が行なわれ、日本は11位の成績を残しました。

木野 実氏

戦いに必要なものは先ず気構えです。気持ちだけではなくて、気迫がどれだけ備わっているかということがナショナル同士の戦いでは一番大きなウェイトを占めるのではないかと思います。戦術を監督やスタッフが立てているでしょうから、それを各自が本当に徹底してやっていくことです。また5分でも3分でもこのひとつだけは守れる、ここのポジションは決められるとか、そういう選手がきっといるのでそれを結果として出してもらいたい。そうすれば勝っていけます。ただ1点の重みがあるから、これから10月のアジア予選に向けて基本をもう一度徹底して欲しい。ここまで来たら再度基本を大事にして、それを徹底してどれだけチーム力を上げられるかということを念頭に置いてゲームを迎えてもらいたい。本当に国の代表対代表は異常な戦いになります。予選はつらいですよね。本当にプレッシャーが強い。それだけにやはり普段以上の気迫を持ってやらないとなかなかきついのではないかと考えます。とにかく頑張って欲しい。

佐々木 健一氏

チームプレーに徹してチームワークを徹底的に強固にすること。日本が勝つためには個人プレーではなく、チームプレーに本当に徹して欲しいものです。

近森 克彦氏

オリンピックはあらゆる競技の中で最も大きなイベントであり、古い言い方であるが死に物狂いで最後まで戦ってもらいたい。それしかないですね。勝つということで前に進んで行って欲しい。

野田 清氏

オリンピック出場権を得るためにはチームの中での自分の役割と責任、これはポジションの役割と責任もあるし、チームの中の年齢構成によったものもあるわけだから、これをしっかり各々が自覚して、それを実践して結果を出す。これが勝つことにつながってくると思うので、皆さんがそれぞれ目標、目的を持ってしっかり戦って結果を出していただきたい。期待していますから頑張ってください。

左から、本田氏、佐々木氏、木野氏、近森氏、野田氏、氷海氏

氷海 正行氏

勝つときのチームは、メンバーひとりひとりの気持ちが同じレベルにあり、その精神は深いものがあります。これは私の経験上のことですが、そのようなチームは勝つ確率が高いものです。精神的にオリンピック出場権を得るのだと言う気持ちを各メンバーがどれだけ強く持てるかが鍵です。日本ハンドボール界にとってオリンピック出場は今になれば悲願だと言われるくらい遠ざかっているので、ぜひここで出場権を得て、ハンドボール界のためにも、また自分たちのためにも出場を是が非でもして貰いたい。全力で頑張って欲しいものです。

本田 洋氏

日の丸を胸につけて戦うことは日本ハンドボール界のトッププレーヤーとして最高の誇りです。その栄冠は諸先輩や恩師の願いであり、その姿は後輩の夢と希望です。日の丸を胸につけて戦う限り、代表となるために競い合ってきた同志球友の願いを胸に秘め、どのような相手であっても負けるわけにはいかない使命を帯びています。その生き方、その戦う姿を堂々と見せて最後まで戦い抜いて下さい。アジア予選は日本リーグや親善試合というものとは全くレベルの異なるハンドボールであり、今まで経験したことのないようなゲームになるのです。

自分たちが死ぬか生きるかの一種異様な雰囲気の中でのハンドボールの戦いになります。

相手を侮ってはなりませんが、人間と人間の戦いですから大差はないのです。「敵を知り、己を知れば、百戦危うからず」というではありませんか。必ず活路は見い出せます。日本ナショナルチームの健闘を祈っております。選手一人一人に栄光あれ。

平成 23 年度
第14回ハンドボール研究集会報告

ゴール型教材としてのハンドボール ―その4―

学校体育ハンドボール検討専門委員会委員
高橋 喜春（神奈川県立座間養護学校）

1．期日 平成 23 年度7月 28 日（木）～ 29 日（金）
2．会場 長野県千曲市立埴生小学校、
稲荷山温泉ホテル杏泉閣
3．主催など
主催 （財）日本ハンドボール協会
主管 長野県ハンドボール協会
後援 文部科学省 長野県教育委員会 千曲市教育委員会
対象 小学校・中学校および高等学校教諭
教員養成大学学生・大学院生および教員
地域スポーツ指導者
日本ハンドボール協会Ｊ級指導員等
4．実施内容
【7月 28 日（木）】
■講演「ゴール型教材としてのハンドボール
―指導と評価の一体化を目指して―」
講師：石川 泰成（国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官
〈併〉文部科学省スポーツ・青少年局参事〈体育・青少年スポーツ〉付・教科調査官）
《講演内容》小学校から高等学校の学習指導要領における体育分野の指導内容の体系化、球技（ゴール型）の発展・系統性を示されました。特に内容の取扱いにおいて、球技では、「ボール操作などに関する動きとボールを持たない動きついての学習課題」「相手コートに侵入し攻防を楽しむ」など、その特性や魅力を示し、球技としてのハンドボールの良さが強調されました。また、学習評価について観点別学習評価の在り方について述べられ、今後の方向性について示唆されました。
■研究・実践報告
①「極小規模校において全校児童で楽しむハンドボールの実践」
―ルールやタスクゲームの工夫を通して―
高橋 高志（新潟県佐渡市立小木小学校）
②「HAZENA・2―子どもの動きを引き出すゴール教材―」
信原 悦治（岡山市立馬屋下小学校）
③「小学生のハンドボール指導における処方能力の発生分析」
―予備ゲームの教材づくりと関連して―
高橋 喜春（神奈川県立座間養護学校）
佐藤 靖（秋田大学教育文化学部）
④「子どもの良い動きを引き出す、ボール選定とルールの工夫」
山本 繁（岩手県岩泉町立二升石小学校）
⑤「技能の高まりを実感できる体育学習」
酒井 伸行（名古屋市立東築地小学校）
■実技研修「ボール運動につながる楽しい運動遊び」
講師：渡辺 敏明（信州大学教育学部）
《実技内容》本研修では「ボール運動につながる運動遊び」を紹介していただきました。導入ではモノや仲間とコミュニケーションをとりながら、自分の動きに意識を向けます。また、ボール操作では、ゴミゴミボールという扱いやすく機能を単純化した工夫の仕方を提供していただきました。さらには、ボールを持たない動きにつながるたくさんの鬼遊びを紹介していただきました。主な内容は以下の通りです。
○仲間と息を合わせる運動遊び
・からだじゃんけん、まほうのじゅうたん等
○ゴミゴミボールを使った運動遊び
・投げ上げてキャッチ、二人組で足を使ったボール操作、三角ボール運びゲーム等
○弾むボールを使った遊び
・ドリブル集合、壁当てバウンドキャッチ等
○鬼遊び
・フェイントゲーム、島鬼、パスアンドヒットゲーム等
【7月 29 日（金）】
■授業提案「走って つないで ナイスシュート」（6年）
授業者：山崎 山美（千曲市立埴生小学校）
《授業内容》本時はハンドボールの単元の最終回。ゴール前には「キーパーくん」こと巨大な人形が…。またフリーエリアをゴール前に設け、ディフェンスの裏に走りこめる動きを期待していました。埴生小学校では県内でも唯一小学校の部活動としてハンドボールが行われていることもあって、子供たちの運動技能も高く、練習やゲームの中で自分の考えを友だちに伝え合ったり、教え合ったりして、楽しさを実感している様子が印象的でした。
■講義「小学校におけるハンドボールの系統的指導を考える」
講師：佐藤 靖（秋田大学教育文化学部）
《講義内容》学校体育検討専門委員長である佐藤先生からは、これまでの委員会活動の軌跡とハンドボールが学習指導要領に載るまでの経緯を紹介していただきました。特にこれまでの研究集会で提案していただいた授業教材をまとめ上げ、系統的指導における問題点を列挙し、よりよい授業になるような改善点を示して下さいました。また、教材の一部を映像資料として参加者に提供していただきました。一つひとつの教材には、それぞれの学習内容に基づいて、違った工夫がなされています。さらに、ゲームの教材配列の系統性という側面から方向性（案）を示され、ご自身が指導する大学チームをモデルに教材づくりの一部を映像を用いて紹介していただきました。
5．まとめ
今回で実施回数は 14 回を数えます。指導要領の改訂により、小学校において体育の授業でハンドボールが取り上げられる機会が増えてきました。今回も全国各地からの実践報告がなされました。今後とも教材として指導しやすいハンドボールの魅力をもっと知っていただけるよう関係者一同取り組んでいきたいと考えています。この度、お忙しい中御講演いただいた先生方や研究・実践報告、そして授業提案していただいた先生方に感謝すると共に、会場を提供していただいた埴生小学校、稲荷山温泉ホテル杏泉閣をはじめ、全面的にご協力いただいた長野県ハンドボール協会関係者の方々に御礼を申しあげます。

審判部報告

2011 北の空　君に無限の可能性　岩手インターハイ —審判員として

岩手県ハンドボール協会　佐藤正輝（盛岡市立見前中学校教諭）　中野達也（盛岡市立大宮中学校教諭）

平成23年3月11日、誰もが予想をしなかった大震災が、ハンドボールを楽しみ、頑張り、愛する岩手を襲いました。町が、体育館が、人の心が…被害は私たちの想像を絶する状況でした。高校選抜大会が中止となり、高校生の集大成であるインターハイの開催も心配されましたが、ハンドボール関係者の多大な支援をはじめ、全国のみなさんのあたたかいご支援、ご協力により開催することができました。そんな深い意味を持つインターハイの審判を委嘱されたのは、復興に向けてがんばっている時でした。私たちにとってはじめての全国大会のレフェリーとなるため、緊張と不安とともに自分たちのチャレンジの場としてやる気を感じたことを覚えています。

大会期間中となる7月28日～8月3日までの間、前日の審判研修会をはじめ、ミーティング、審判員での交流などいかに選手がプレーしやすいジャッジをするかを大きなテーマに毎日、研修を積むことができました。

研修会では大橋審判長、越田審査委員長より「レフェリーとしてゲームを管理するための大切な鍵」を中心に、数々の経験、実践をもとにたくさんのご指導やアドバイスをいただきました。特にレフェリーの仕事の目的（両チームのプレーヤーが大切な場面でミスをしないよう、違反なくプレーできるよう、そして持てる技能を存分に発揮できるようにゲームを管理する）では、基準の正確さや統一性、レフェリーとしての役割などを改めて考えることができました。またプレーの評価と予想、段階的罰則の判定の注意点など基本的なことを確認することができました。「選手のための審判」であることをこの研修を通して、強く感じることができました。

審判団は「いかに選手に存分に力を発揮してもらうか」を念頭に置きながら、早朝・競技終了後のミーティングと、試合終了後には審査員やマッチバイザーとの研修を常に行いました。大陸や全国で活躍するペアもいれば、全国大会初のペアもいましたが、どのペアも1試合1試合が研修及び大きな成長の場になったと思います。

実際のゲームでは、ある程度の緊張感を持ちながら、それぞれのチームが力を発揮できるように考えながら笛を持つことができました。試合後は、審判としての基本的なことを中心にご指導いただきました。「段階罰のしっかりした見極め」「イエローカードの意味（OFにもDFにも全体に示している）」「ゲームの展開やリズムがとれるタイミングのよい笛」「オーバーステップなどの感覚」などです。これらは当然のことと思われるとかもしれませんが、実際の試合の現象を一つ一つ分析し、研修することは基本的なことですが、審判として大きな力となったと思います。また、多くの先輩方のレフェリングを見ることも大変勉強になりました。また技術以外にも「常に審判員」という意識を持つことの大切さを実感しました。服装や態度、振る舞いなどすべては審判として見られているのです。この審判なら任せられるといったような審判として、いや人間としての心、人格を持ち合わせることが最も重要だということを学ぶことができたと思います。

この度、私たちがインターハイという高校生の最高の場での笛を吹く機会を与えて頂いたことに大変感謝しております。ここで学んだことを今後の実践に役立て、さらにレベルアップを図っていきたいと思います。

最後にこの大震災で全国の皆様には多大なご支援を頂きました。今後も感謝の気持ちを忘れず、「選手のための最高の笛」を目指して精進していきたいと思います。本当にありがとうございました。　　執筆　佐藤正輝

スーパープレーを見せる
スポーツ選手たちを支え

原寸大：W45mm×D17mm×H70mm

いつでもどこでも自分の体を自分でケアする「フルタイム・セルフケア」という
発想から生まれた、ITOのポータブル低周波治療器「AT-mini」。
トレーニングで損傷した筋肉に、3つの電気刺激モードが効果的に働きます。
ライバルを、そして自分をもっと超えていくために。
この小さなボディに盛り込まれた先進のテクノロジーが、
戦うあなたを力強くサポートする。

AT-mini

AT ミニ

管理医療機器（特定保守管理医療機器）（クラスII）
低周波治療器　医療機器認証番号 220AABZX00344A01

50g 超軽量

本体重量わずか50g（充電池含む）、サイズも極小。ITOの技術が、今までになかった超軽量・コンパクトな低周波治療器を実現しました。

12時間 連続使用

リチウムイオンバッテリーにより、最大12時間の連続使用が可能。この小ささで、スタミナも一流です。

3つの治療モード（COMB / PAIN / CARE） 鎮痛・治癒

● COMB〈鎮痛+治癒〉 Allタイムケア
トレーニングを終えた全てのアスリートに効果的な、鎮痛と治癒を組み合わせたケアモードです。

● PAIN〈鎮痛〉 ONタイムケア
トレーニング中など、現場で起こった捻挫や筋肉・関節の痛みといった急なアクシデントに有効です。

● CARE〈治癒〉 OFFタイムケア
移動中や休憩中などの体を休めている時にも、トレーニングで損傷した筋組織の治癒を促進します。

たい。

つねに最高のコンディションを保ち、ケガをした場合はより早くベストな状態へ回復することが彼らの大きな課題です。医療の分野だけではなく、こうしたスポーツ選手をサポートするために、私達の物理療法機器が活躍しています。日本を代表する選手をはじめ、さまざまなシーンで活躍する選手を幅広くサポートすること。私達は医療とスポーツの両分野で培った経験を活かして、これからもスポーツの世界を積極的に応援していきます。

第9回ハンドボールコーチング研究会は、平成23年3月12日駒澤大学において開催が予定されていましたが、前日の3月11日に大震災が発生したことにより中止となりました。

そこで研究会で発表予定であった内容については、本誌で連載報告していただく運びとなりました。

今月は小笠原一生先生（国立スポーツ科学センター）の発表内容「ハンドボールのシュート動作における手先加速メカニズムの動力学的解析」を報告させていただきます。なお、他の発表については次号以降で報告を連載いたします。

(財)日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人福島高等学校）

ハンドボールのシュート動作における手先加速メカニズムの動力学的解析
―腕のしなりを利かせたシュートに着目して―

小笠原一生（国立スポーツ科学センター）、田中守（福岡大学）、田村修治（東海大学）、斉藤慎太郎（大同大学）、市村志朗（東京理科大学）、仲田好邦（名桜大学）、稲福貴史（仙台大学大学院）、舎利弗学（福島高校）

キーワード：投動作、動力学モデル、相互作用トルク

I. 背景

近年、日本人選手とヨーロッパ選手との間で“投げ方”に差異があることが指摘されており、ヨーロッパ型の投動作の方が競技上の利点が大きいと思われることから、NTSではヨーロッパ型の投動作を取り入れる動きが見られるようになった。

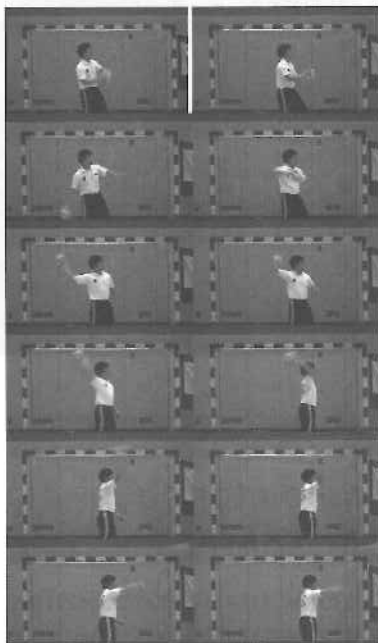



図1　日本型（左）とヨーロッパ型（右）

ここで、便宜的に日本人選手の投げ方を「日本型」とし、ヨーロッパ選手の投げ方を「ヨーロッパ型」とする。図1は日本型とヨーロッパ型の写真とスティックピクチャーである。日本型（左）はテイクバック時に肘を伸ばしたまま大きく下に弧を描き、主に肩の水平内転を使って前方にボールを加速させている。一方のヨーロッパ型（右）は腕（肘）を折りたたんで直線的にテイクバックし、加速期では肘が先行しながら肩の内転を使ってボールを前方に加速し、さらに加速期後半には肩の内旋が加わる。両者のスティックピクチャーを比較すると、日本型は腕の軌道範囲が大きいのに対し、ヨーロッパ型は、下に描く弧が無い分、腕をコンパクトにテイクバックできている。また、ヨーロッパ型は肘が先行するため見た目に“腕のしなりを利かせた”投げであるという印象を与える。以上の特徴より、ヨーロッパ型は日本型に比べて以下のような利点があると予想される。まず、腕をコンパクトに振れることから、DFが近い密集地域でも腕を振るための空間を確保しやすいこと。

さらに、大きなテイクバックが無いためリリースまでの時間を短縮でき、DFやGKがタイミングを合わせづらくなること。また、物理的には、ヨーロッパ型は筋力に依存しないトルク（相互作用トルク）を巧みに使って腕を加速していると考えられ、筋疲労に対して経済的であること、などである。日本型の投げの背景には、体の小さな日本人選手が大きな外国人選手と対戦する際、体を大きく使ってボールを加速することで体格差によるボール威力の低下をカバーする狙いがあり、従来の指導において腕を大きく回す投げが強調されてきたと考えられる。しかしながら、ヨーロッパ型の投げの特徴を再考すると、従来の投げ方よりも、むしろヨーロッパ型の投げの方が、体格が小さく筋力の弱い日本人選手に適しているとも考えられる。

以上のことから、日本ハンドボール界は、従来の投げに加えて、ヨーロッパ型の投げを選択できる余地を持つべきであり、そのためには指導者、とりわけ投げの基本を学習する若年層を受け持つ指導者がヨーロッパ型の投げを指導できるス

キルをもつ必要があると考えられる。そこで情報科学委員会ではヨーロッパ型の投動作に関する動力学的解析を通じて、本スキルを定量的に評価する必要がある。そこで本研究は本投動作の動力学的解析を通じてコーチングに資する資料を得ることを目的とした。

II. 方法

JHA ジュニアアカデミーを対象とし動作解析実験を行った。本実験では選手の体ランドマークに反射マーカを貼付し、コートを取り囲むように配置した 14 台の赤外線カメラを用いてリアルタイムに反射マーカの 3 次元軌跡を記録した。

実験で得られたシュート動作中の反射マーカの 3 次元軌跡に対して動力学的解析を施した。

III. 結果と考察

ここでは特にヨーロッパ型の投動作に近いシュートを放ったK選手の結果を検討する。図2はK選手のジャンプシュートのスティックピクチャーである。テイクバック位置から肘が先行して腕が前方へ加速されている。この時は肩の内転角速度が高まる、加速期後半では肩内旋角速度が増加し、リリースを迎えている。肩トルクでは、まず肩内転トルクが最大テイクバック時にピークを迎えた後、肩最大外旋時に肩内旋トルクがピークを迎えて、両トルクともリリースに向けて徐々に減少する（図3）。生理学的には筋の発揮張力と短縮速度の間には反比例の関係があるので、腕の振りの速度が大きくなるに従い、関節トルクが小さくなるのは当然である。ここで、リリースに向けて関節トルクが減少するのと同期的に遠心力で肘が伸展するが、この肘の伸展により肩内旋軸まわりの慣性モーメント（すなわち回転抵抗）が大幅に減少する。この慣性モーメントの減少によって小さなトルクでも効率的に肩内旋角速度を増すことができ、結果的に手先速度はリリースに向けて増加し続けた（図4）。

以上より担当肩トルクの変遷（肩内転⇒肩内旋）に応じた肘屈曲角度の伸展により効率的に手先加速を遂げていることが示された。さらにヨーロッパ型の投動作の大きな特徴としては、相互作用トルクを有効に利用した手先速度の向上がある。イメージ的には、ムチの根本をタイミング良く引くことでムチの先端速度を劇的に増す行為に似ている。つまり、腕の近位を適切なタイミングで進行方向とは逆に加速させることで遠位リンクの角速度を高めるのである。

図2にはK選手のシュート時に肩関節および肘関節に加えられた並進力をベクトルで示している。加速期前半は肩関節、肘関節には前向きに並進力が作用していることが、力ベクトルの方向から分かる。ところがリリースが近づいた加速期後半では力ベクトルが下後方に向きを変え、腕にブレーキがかかっていることが分かる。この力ベクトルの方向変化の意味は2つ考えられる。ひとつは遠心力によって腕が外方向に外れて飛んでいくことを抑制していること。そしてもう一つは腕の根元にブレーキをかけることで腕先端に大きな加速を得えようとしたことである。以上のことからエリートアカデミー生K選手の投動作においてリリースのタイミングで腕近位にブレーキが生じていることが示された。また、効率的に手先を加速させるためには、ボールの進行方向に大きな筋力で腕を回すだけではなく、適切なタイミングで腕の根元を後方に引く動作の重要性が示唆された。

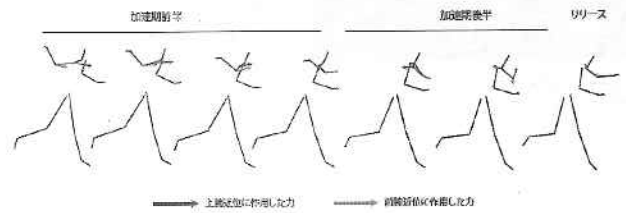
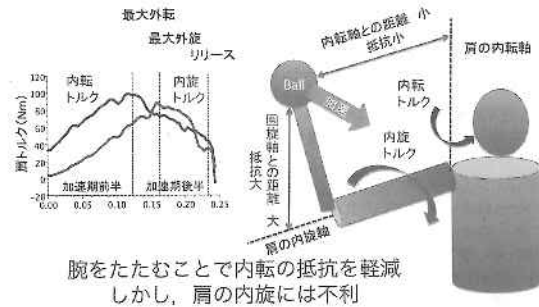
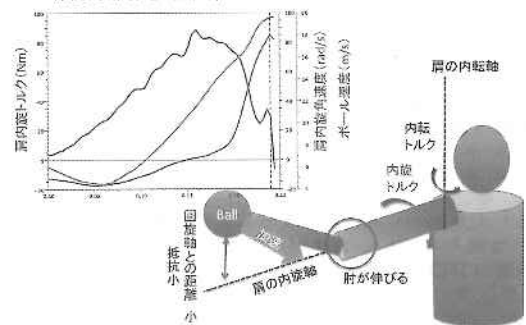



図2　スティックピクチャー

図3　肩トルクの変遷

図4　腕の姿勢変化とボール速度増大

スコアルーム①
第24回全国小学生ハンドボール大会
開催期日：2011年7月29日(金)～31日(日)
会　場：京都府・京田辺市中央体育館

【男　子】

■ 予選Aブロック
IDBスポーツクラブ 23（11－11、2－2）3 岩出ハンドボール教室
IDBスポーツクラブ 12－0 新治クラブ
岩出ハンドボール教室 12－0 新治クラブ
【順位】①IDBスポーツクラブ（山口県）②岩出ハンドボール教室（和歌山県）③新治クラブ（茨城県）

■ 予選Bブロック
東久留米クラブ 24（13－2、11－4）6 小松ジュニア
東久留米クラブ 22（10－4、12－2）6 延岡東クラブ
小松ジュニア 11（4－2、7－5）7 延岡東クラブ
【順位】①東久留米ハンドボールクラブ（東京都）②小松ジュニアハンドボールクラブ（石川県）③延岡東ハンドボールクラブ（宮崎県）

■ 予選Cブロック
桃園小学校クラブ 25（15－7、10－6）13 尾花沢スポーツ少年団
桃園小学校クラブ 17（7－4、10－3）7 瀬戸オールスターズ
尾花沢スポーツ少年団 18（8－8、10－9）17 瀬戸オールスターズ
【順位】①桃園小学校ハンドボールクラブ（開催地）②尾花沢ハンドボールスポーツ少年団（山形県）③瀬戸オールスターズジュニア（岡山県）

■ 予選Dブロック
木田ブルーロケッツ 18（7－6、11－7）13 玉名町小学校
木田ブルーロケッツ 21（12－5、9－2）7 三郷クラブ
玉名町小学校 17（7－4、10－7）11 三郷クラブ
【順位】①木田ブルーロケッツ2000（福井県）②玉名町小学校（熊本県）③三郷ハンドボールクラブ（埼玉県）

■ 予選Eブロック
窪スポーツ少年団 19（9－2、10－3）5 神戸ラスカルズ
窪スポーツ少年団 20（10－7、10－6）13 高山ミニクラブ
神戸ラスカルズ 18（10－6、8－4）10 高山ミニクラブ
【順位】①窪スポーツ少年団（富山県）②神戸ラスカルズ（兵庫県）③高山ミニハンドボールクラブ（岐阜県）

■ 予選Fブロック
神森小学校クラブ 23（11－6、12－6）12 湘南台クラブ
神森小学校クラブ 21（15－3、6－6）9 真弓クラブ
湘南台クラブ 17（7－5、10－9）14 真弓クラブ
【順位】①神森小学校ハンドボールクラブ（沖縄県）②湘南台クラブ（神奈川県）③真弓クラブ（奈良県）

■ 予選Gブロック
東海スクール 25（12－8、13－5）13 大浜キッズ
東海スクール 14（7－4、7－5）9 宮岡イーグルス
大浜キッズ 16（6－9、10－5）14 宮岡イーグルス
【順位】①東海ハンドボールスクール（愛知県）②大浜キッズ（大阪府）③宮岡イーグルス（群馬県）

■ 予選Hブロック
潮クラブ 19（8－4、11－11）15 日吉台ファルコン
潮クラブ 18（9－4、9－4）8 小島小学校
日吉台ファルコン 21（12－6、9－11）17 小島小学校
【順位】①潮ハンドボールクラブ（北海道）②日吉台ファルコン（千葉県）③小島小学校ハンドボールクラブ（長崎県）

■ 予選Ｉブロック
田辺東小学校 20（11－4、9－6）10 安芸高田クラブ
田辺東小学校 27（20－6、7－7）13 塩山スポーツ少年団
安芸高田クラブ 24（10－1、14－3）4 塩山スポーツ少年団
【順位】①田辺東小学校ハンドボールチーム（京都府）②安芸高田ハンドボールクラブ（広島県）③塩山ハンドボールスポーツ少年団（山梨県）

■ 予選Jブロック
香川町スポーツ少年団 26（14－4、12－10）14 姶良スポーツクラブ
香川町スポーツ少年団 22（7－10、15－7）17 LHC静岡
姶良スポーツクラブ 18（9－5、9－9）14 LHC静岡
【順位】①香川町ハンドボールスポーツ少年団オリーブくん（香川県）②姶良スポーツクラブ（鹿児島県）③LHC静岡ハンドボールスクール（静岡県）

■ 予選Kブロック
下郡スポーツ少年団 17（8－8、9－7）15 鈴鹿スクール
下郡スポーツ少年団 18（12－6、6－4）10 愛媛ジュニアーズ
鈴鹿スクール 16（9－3、7－3）6 愛媛ジュニアーズ
【順位】①下郡ハンドボールスポーツ少年団（大分県）②鈴鹿ハンドボールスクール（三重県）③愛媛ジュニアーズ（愛媛県）

■ 決勝トーナメント1回戦
田辺東小学校 18（10－4、8－7）11 香川町スポーツ少年団
東海スクール 22（11－6、11－7）13 潮クラブ
東久留米クラブ 20（8－4、12－5）9 桃園小学校クラブ

■ 決勝トーナメント2回戦
田辺東小学校 23（11－4、12－4）8 下郡スポーツ少年団
東海スクール 15（6－7、9－6）13 神森小学校クラブ
木田ブルーロケッツ 20（11－5、9－11）16 窪スポーツ少年団
東久留米クラブ 19（10－3、9－8）11 IDBスポーツクラブ

■ 準決勝
田辺東小学校 16（7－1、9－5）6 東海スクール
東久留米クラブ 18（7－7、11－7）14 木田ブルーロケッツ

■ 3位決定戦
木田ブルーロケッツ 17（9－7、8－8）15 東海スクール

■ 決勝戦
田辺東小学校 22（8－5、14－6）11 東久留米クラブ

【女　子】

■ 予選aブロック
平針南クラブ 13（6－5、7－4）9 三郷クラブ
平針南クラブ 23（15－2、8－2）4 三松小スポーツ少年団
三郷クラブ 21（9－3、12－6）9 三松小スポーツ少年団
【順位】①平針南ハンドボールクラブ（愛知県）②三郷ハンドボールクラブ（埼玉県）③三松小ハンドボールスポーツ少年団（宮崎県）

■ 予選bブロック
日吉台バード 18（9－9、9－7）16 愛媛ジュニアーズ
真弓クラブ 9（4－5、5－3）8 笠松町スポーツ少年団
愛媛ジュニアーズ 19（9－8、10－6）14 笠松町スポーツ少年団
日吉台バード 11（5－3、6－1）4 真弓クラブ
【順位】①日吉台バード（千葉県）②真弓クラブ（奈良県）③愛媛ジュニアーズ（愛媛県）④笠松町ハンドボールスポーツ少年団（岐阜県）

■ 予選cブロック
桃園小学校 18（8－2、10－1）3 南林間クラブ
倉敷ジュニア 13（10－3、3－1）4 小松ジュニア
南林間クラブ 8（5－4、3－3）7 小松ジュニア
桃園小学校 19（8－2、11－6）8 倉敷ジュニア
【順位】①桃園小学校ハンドボールクラブ（京都府）②倉敷ジュニアハンドボールクラブ（岡山県）③南林間ハンドボールクラブ（神奈川県）④小松ジュニアハンドボールクラブ（石川県）

■ 予選dブロック
木田ブルーロケッツ 15（7－3、8－7）10 大浜キッズ
小島小学校 20（7－3、13－9）12 桜川クラブ
大浜キッズ 12（2－2、10－1）3 桜川クラブ
木田ブルーロケッツ 14（4－3、10－2）5 小島小学校
【順位】①木田ブルーロケッツ2000（福井県）②小島小学校ハンドボールクラブ（長崎県）③大浜キッズ（大阪府）④桜川ハンドボールクラブ（東京都）

■ 予選eブロック
浦城クラブ 25（15－0、10－1）1 川西コジマーズ
HC向原 8（4－1、4－2）3 宮岡ラビッツ
川西コジマーズ 14（5－1、9－4）5 宮岡ラビッツ
浦城クラブ 22（13－3、9－5）8 HC向原
【順位】①浦城ハンドボールクラブ（沖縄県）②HC向原（広島県）③川西コジマーズ（兵庫県）④宮岡ラビッツ（群馬県）

■ 予選fブロック
日岡スポーツ少年団 23（8－5、15－5）10 IDBスポーツクラブ
香川町スポーツ少年団 10（4－2、6－2）4 和歌山ハンドボール教室
IDBスポーツクラブ 30（16－4、14－4）8 和歌山ハンドボール教室
日岡スポーツ少年団 31（15－3、16－1）4 香川町スポーツ少年団
【順位】①日岡ハンドボールスポーツ少年団（大分県）②香川町ハンドボールスポーツ少年団オリーブちゃん（香川県）③IDBスポーツクラブ（山口県）④和歌山ハンドボール教室（和歌山県）

■ 予選gブロック
松井ヶ丘小学校 11（6－5、5－3）8 土浦クラブ
笹川クラブ 16（3－2、13－10）12 潮クラブ
土浦クラブ 19（8－2、11－7）9 潮クラブ
松井ヶ丘小学校 13（6－4、7－4）8 笹川クラブ
【順位】①松井ヶ丘小学校ハンドボールクラブ（開催地）②笹川ハンドボールクラブ（三重県）③土浦ハンドボールクラブ（茨城県）④潮ハンドボールクラブ（北海道）

■ 予選hブロック
上庄クラブ 14（6－1、8－0）1 当尾小学校
上庄クラブ 22（11－1、11－1）2 山梨市スポーツ少年団
当尾小学校 17（9－6、8－8）14 山梨市スポーツ少年団
【順位】①上庄ハンドボールクラブ（富山県）②当尾小学校（熊本県）③山梨市ハンドボールスポーツ少年団（山梨県）

■ 決勝トーナメント1回戦
上庄クラブ 9（6－0、3－7）7 松井ヶ丘小学校
浦城クラブ 17（9－5、8－4）9 日岡スポーツ少年団
桃園小学校 15（9－4、6－4）8 木田ブルーロケッツ
平針南クラブ 19（9－6、10－4）10 日吉台バード

■ 準決勝
浦城クラブ 20（10－5、10－3）8 上庄クラブ
桃園小学校 8（3－4、5－1）5 平針南クラブ

■ 3位決定戦
上庄クラブ 11（7－5、4－5）10 平針南クラブ

■ 決勝戦
浦城クラブ 14（5－1、9－3）4 桃園小学校

スコアールーム ②

第19回全日本マスターズ大会

開催期日：2011年8月5日(金)～7日(日)
会　　場：大阪府・大阪市舞洲運動公園メインアリーナ他

【男子交流型】

▼あブロック

岐阜MHC・A	10－10	HCみやび
岐阜MHC・A	10－7	秋桜柏
岐阜MHC・A	14－9	東京都社会人連盟
東京都社会人連盟	13－12	HCみやび
東京都社会人連盟	14－5	秋桜柏
秋桜柏	11－8	HCみやび

▼いブロック

中京オールスターズ	14－14	WAKUNAGA
中京オールスターズ	15－9	三景
中京オールスターズ	23－4	神楽坂シニア
WAKUNAGA	15－12	三景
WAKUNAGA	18－7	神楽坂シニア
三景	11－8	神楽坂シニア

▼うブロック

生駒オークス	16－12	海自桜錨会B
生駒オークス	20－8	都島クラブ
生駒オークス	19－8	三国丘クラブ
海自桜錨会B	16－8	三国丘クラブ
都島クラブ	15－9	海自桜錨会B
都島クラブ	10－10	三国丘クラブ

▼えブロック

兵庫選抜	22－10	海自桜錨会A
兵庫選抜	18－8	福岡クラブ
兵庫選抜	21－8	知多クラブ
福岡クラブ	14－12	海自桜錨会A
福岡クラブ	16－9	知多クラブ
知多クラブ	15－14	海自桜錨会A

▼おブロック

46G会	19－10	横浜平沼マスターズ
46G会	12－11	オールド愛媛
46G会	22－9	山口選抜
オールド愛媛	15－12	横浜平沼マスターズ
横浜平沼マスターズ	14－11	山口選抜
オールド愛媛	15－12	山口選抜

▼かブロック

静岡マスターズ	18－15	豊橋マスターズ
静岡マスターズ	18－10	ブルーウイングス
静岡マスターズ	16－14	松門会
ブルーウイングス	17－14	豊橋マスターズ
ブルーウイングス	20－16	松門会
豊橋マスターズ	19－17	松門会

▼きブロック

葵クラブA	11－9	HC名古屋ATF・A
葵クラブA	14－9	LBCアルバトロス
葵クラブA	11－11	SINCE2008
SINCE2008	8－6	HC名古屋ATF・A
LBCアルバトロス	12－11	SINCE2008
LBCアルバトロス	9－8	HC名古屋ATF・A

▼くブロック

小金クラブ	24－16	葵クラブB
小金クラブ	15－8	HC名古屋ATF・B
小金クラブ	14－10	摂津倶楽部A
HC名古屋ATF・B	12－12	葵クラブB
摂津倶楽部A	10－4	HC名古屋ATF・B
葵クラブB	9－9	摂津倶楽部A

▼けブロック

岐阜MHC・B	18－10	摂津倶楽部B
岐阜MHC・B	11－9	天王寺高校B
拝島ブルーウッド	17－10	岐阜MHC・B
拝島ブルーウッド	14－8	摂津倶楽部B
天王寺高校B	11－10	拝島ブルーウッド
天王寺高校B	14－5	摂津倶楽部B

▼こブロック

Team NEXT	14－11	川崎マスターズ
Team NEXT	15－8	桃レンジャー
天王寺高校A	11－10	Team NEXT
天王寺高校A	14－8	桃レンジャー
川崎マスターズ	12－8	天王寺高校A
桃レンジャー	11－6	川崎マスターズ

【女子交流型】

▼さブロック

ひわこレイカーズ	12－8	瀬戸内レディース
ひわこレイカーズ	9－4	ふくちゃんず
ひわこレイカーズ	16－12	フェニーチェ
瀬戸内レディース	12－5	ふくちゃんず
瀬戸内レディース	17－12	フェニーチェ
フェニーチェ	17－10	ふくちゃんず

▼しブロック

摂津倶楽部K	8－5	HC名古屋中部ドリームズ
摂津倶楽部K	6－5	BABA'S
摂津倶楽部K	8－8	徳山クラブ
BABA'S	9－8	HC名古屋中部ドリームズ
徳山クラブ	16－6	HC名古屋中部ドリームズ
徳山クラブ	15－10	BABA'S

▼すブロック

生駒オークスレディース	10－9	武蔵野クラブ
生駒オークスレディース	12－12	モッピークラブ
生駒オークスレディース	10－9	KAGAWA
KAGAWA	18－8	武蔵野クラブ
KAGAWA	17－9	モッピークラブ
モッピークラブ	13－7	武蔵野クラブ

【女子交流型】

▼さブロック

ひわこレイカーズ	12−8	瀬戸内レディース
ひわこレイカーズ	9−4	ふくちゃんず
ひわこレイカーズ	16−12	フェニーチェ
瀬戸内レディース	12−5	ふくちゃんず
瀬戸内レディース	17−12	フェニーチェ
フェニーチェ	17−10	ふくちゃんず

▼しブロック

摂津倶楽部K	8−5	HC名古屋中部ドリームズ
摂津倶楽部K	6−5	BABA'S
摂津倶楽部K	8−8	徳山クラブ
BABA'S	9−8	HC名古屋中部ドリームズ
徳山クラブ	16−6	HC名古屋中部ドリームズ
徳山クラブ	15−10	BABA'S

▼すブロック

生駒オークスレディース	10−9	武蔵野クラブ
生駒オークスレディース	12−12	モッピークラブ
生駒オークスレディース	10−9	KAGAWA
KAGAWA	18−8	武蔵野クラブ
KAGAWA	17−9	モッピークラブ
モッピークラブ	13−7	武蔵野クラブ

▼せブロック

風見鶏ファミリー	17−6	櫻さんクラブ
風見鶏ファミリー	24−7	F・J・C
風見鶏ファミリー	16−4	スマイルGifu
櫻さんクラブ	15−8	F・J・C
櫻さんクラブ	12−10	スマイルGifu
F・J・C	10−10	スマイルGifu

【男子競技型】

▼1回戦

徳山クラブ	14−12	U60スペイン
AZZURRO	12−11	HC群馬サファリ
トクヤマ	11−10	待兼シニア
チーム大阪	23−11	神楽坂フェニックス
安威川クラブ	12−10	IDBスポーツ

▼2回戦

下松ク・アダルツ	21−6	徳山クラブ
AZZURRO	13−11	トクヤマ
オールドフェイス	16−13	チーム大阪
GG'S	18−9	安威川クラブ

▼準決勝

下松ク・アダルツ	15−12	AZZURRO
GG'S	13−9	オールドフェイス

▼3位決定戦

オールドフェイス	16−9	AZZURRO

▼決勝

下松ク・アダルツ	16−14	GG'S

【女子順位決定型】

▼うさぎブロック

富山エンジェルズ	18−8	マミーズ
富山エンジェルズ	15−5	桜っ子
桜っ子	12−5	マミーズ

▼ねこブロック

御座姐	17−9	NEWフェイス
御座姐	13−9	小松クラブ
小松クラブ	13−9	NEWフェイス

▼5位決定戦

マミーズ	9−9	NEWフェイス

▼3位決定戦

小松クラブ	15−10	桜っ子

▼決勝

御座姐	10−7	富山エンジェルズ

【11人制】

▼1回戦

HC名古屋A・待兼	5−4	横浜平沼・秋桜柏
葵クラブ・豊陵会	4−3	LBC・東京社会人

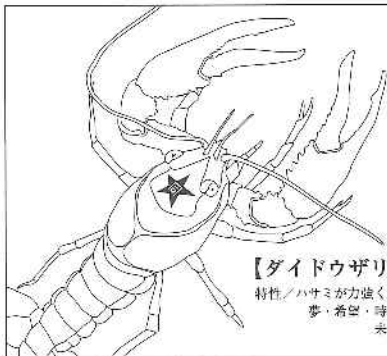
▼準決勝

神楽坂フェニックス	13−4	HC名古屋A・待兼
HC名古屋B・HCみやび・BABA	7−6	葵クラブ・豊陵会

▼3位決定戦

HC名古屋A・待兼	7−6	葵クラブ・豊陵会

▼決勝

HC名古屋B・HCみやび・BABA	5−4	神楽坂フェニックス

スコアルーム ③ 第16回ジャパンオープンハンドボールトーナメント

開催期日：2011年8月6日(土)～9日(火)
会　　場：岐阜県・飛騨高山ビッグアリーナホカ

【男 子】

▼1回戦

チーム	スコア	チーム
Honda(三重県)	30－16	氷見クラブ(富山県)
高知クラブ(高知県)	42－22	花巻クラブ(岩手県)
徳山クラブ(山口県)	39－21	桐球会(神奈川県)
奈良・天理クラブ(奈良県)	棄権	B.I.C(沖縄県)
埼玉教員クラブ(埼玉県)	28－24	小松クラブ(石川県)
HC岐阜(開催地)	41－15	HC福島(福島県)
ボンチフェローズ(大阪府)	32－20	日新製鋼(広島県)
FOG(千葉県)	32－28	宮崎フェニックス(宮崎県)
HC山口(山口県)	43－17	HC秋田(秋田県)
FHC(福岡県)	34－23	清商クラブ(静岡県)
HC神戸(兵庫県)	19－18	EHC(愛媛県)
HC岡山(岡山県)	29－28	FST(東京都)
チーム群馬(群馬県)	30－22	大同クラブ(愛知県)
水海道鬼怒清流クラブ(茨城県)	36－23	山形新球会(山形県)
洛北クラブ(京都府)	9－19	エルムクラブ(北海道)
長崎社中(長崎県)	8－17	HC新潟(新潟県)

▼2回戦

チーム	スコア	チーム
Honda	26 (10－6、16－8) 14	高知クラブ
徳山クラブ	24 (14－12、10－11) 23	奈良・天理クラブ
HC岐阜	32 (19－13、13－9) 22	埼玉教員クラブ
FOG	30 (10－12、20－10) 22	ボンチフェローズ
FHC	24 (16－11、8－12) 23	HC山口
HC岡山	35 (20－8、15－12) 20	HC神戸
チーム群馬	34 (18－12、16－17) 29	水海道鬼怒清流クラブ
長崎社中	36 (19－8、17－14) 22	洛北クラブ

▼準々決勝

チーム	スコア	チーム
Honda	39 (18－9、21－12) 21	徳山クラブ
HC岐阜	24 (11－14、13－8) 22	FOG
HC岡山	35 (16－16、19－13) 29	FHC
長崎社中	39 (13－20、18－11) 35 (5－1 延長 3－3)	チーム群馬

▼準決勝

チーム	スコア	チーム
Honda	27 (15－7、12－7) 14	HC岐阜
長崎社中	31 (19－11、12－11) 22	HC岡山

▼3位決定戦

チーム	スコア	チーム
HC岡山	31 (14－16、17－13) 29	HC岐阜

▼決 勝

チーム	スコア	チーム
Honda	29 (15－14、14－14) 28	長崎社中

【女 子】

▼1回戦

チーム	スコア	チーム
香川銀行T・H(香川県)	29－17	シャトレーゼHC(山梨県)
MMC(愛知県)	29－28	小松クラブ女子(石川県)
JJGANG(福井県)	33－14	各務原市HCキャロット(岐阜県)
京都クラブ(京都府)	19－18	HC長崎(長崎県)
HC高山(開催地)	43－18	白梅三英芙会(岩手県)
氷見クラブ(富山県)	29－28	かながわガピアーノ(神奈川県)
HC東京VENUS(東京都)	33－28	HCやまが(熊本県)
徳山クラブ(山口県)	31－15	GET"S(兵庫県)

▼準々決勝

チーム	スコア	チーム
香川銀行T・H	34 (20－10、14－7) 17	MMC
京都クラブ	24 (12－9、12－11) 20	JJGANG
HC高山	39 (18－9、21－10) 19	氷見クラブ
徳山クラブ	42 (19－15、23－15) 30	HC東京VENUS

▼準決勝

チーム	スコア	チーム
香川銀行T・H	39 (23－7、16－9) 16	京都クラブ
HC高山	24 (10－8、14－10) 18	徳山クラブ

▼3位決定戦

チーム	スコア	チーム
徳山クラブ	35 (16－13、19－14) 27	京都クラブ

▼決 勝

チーム	スコア	チーム
香川銀行T・H	24 (12－6、12－12) 18	HC高山

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」8月入会・継続会員

【宮　城】大河原浩気【埼　玉】松本　隆栄、岡部　克則、西山　逸成【東　京】鈴木　明美、野島　康嗣、佐藤　佳子【神奈川】天門　永春【山　梨】栗原富貴子【愛　知】笹野　邦雄、山下　悟史
【岐　阜】中島　明美【大　阪】久保　幸子、白鳥　貴子、望月　滋乃、舟崎　智芳【兵　庫】新坂　智子、柿木　國夫【広　島】両徳　良樹【佐　賀】久保田秀光

【10月の行事予定】

【会　議】

10月6日(木)　第1回全国理事長会（山口県）

【大　会】

10月7日(金)〜11日(火)
　第66回国民体育大会　（山口県・周南市）
10月12日(水)〜21日(金)
　ロンドン五輪アジア予選(女子)　（中国・常州市）
10月23日(土)〜11月2日(水)
　ロンドン五輪アジア予選(男子)　（韓　国）
10月29日(土)〜11月3日(木)
　日韓スポーツ交流(派遣・男子)　（韓　国）
10月29日(土)〜
　第36回日本リーグ　（各　地）

※誤植の訂正とお詫び

前号（9月号）の最終ページの目次欄で全国クラブ選手権大会東地区大会の「大会を振り返って」の執筆者を「飯塚敏明」氏と記載しましたが、正しくは「飯塚敏章」氏でした。お詫びして訂正させていただきます。

HANDBALL CONTENTS Oct.

（登録チームの購読料は登録料に含む）

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第五二二号

昭和四十年六月七日
第三種郵便物認可

平成二十三年九月二十六日印刷
平成二十三年十月一日発行

東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表〇三―三四八一―二三六一
振替 〇〇一二〇―七―一〇二九三

編集兼発行人 川上憲太

定価 年間三三〇〇円